

HP ProLiant Firmware Maintenance CD ユーザ ガイド



製品番号 447788-197
2009年2月 (第7版)

© Copyright 2007, 2009 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。HP製品およびサービスに対する保証については、当該製品およびサービスの保証規定書に記載されています。本書のいかなる内容も、新たな保証を追加するものではありません。本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書中の技術的あるいは校正上の誤り、脱落に対して、責任を負いかねますのでご了承ください。

本書で取り扱っているコンピュータ ソフトウェアは秘密情報であり、その保有、使用、または複製には、HPから使用許諾を得る必要があります。FAR 12.211および12.212に従って、商用コンピュータ ソフトウェア、コンピュータ ソフトウェア ドキュメンテーション、および商用製品の技術データ (Commercial Computer Software, Computer Software Documentation, and Technical Data for Commercial Items) は、ベンダ標準の商用使用許諾のもとで、米国政府に使用許諾が付与されます。

Microsoft、Windows、Windows Server、Windows XPおよびWindows Vistaは、Microsoft Corporationの米国における登録商標です。

本製品は、日本国内で使用するための仕様になっており、日本国外で使用される場合は、仕様の変更を必要とすることがあります。

本書に掲載されている製品情報には、日本国内で販売されていないものも含まれている場合があります。

対象読者

このガイドは、Microsoft® Windows®、Windows Server® 2003、Windows Server® 2008、Linux、Smartコンポーネントの設定および操作、ならびにシステムおよびオプションへのファームウェアとソフトウェアのインストールについての知識や経験がある担当者を対象にしています。データ消失の危険があるため、このガイドで説明する手順を実際に行う際は、必ず、ファームウェアおよびソフトウェアの使用経験がある担当者が行うようにしてください。

目次

はじめに.....	5
HP ProLiant Firmware Maintenance CDの概要.....	5
最小要件.....	5
HP ProLiant Firmware Maintenance CDの入手.....	6
インストール オプション.....	6
オンライン インストール.....	7
オフライン インストール.....	7
HP USB key utility.....	8
Firmware Maintenance CDに収録されていないコンポーネントのインストール.....	8
Trusted Platform Module.....	8
TPMシナリオ.....	9
HP Smart Update Managerにより強化されたFirmware Maintenance CD.....	10
インストール シナリオ.....	10
ローカル ホストでのグラフィカル インストール.....	11
ローカル ホストでのスクリプト インストール.....	11
複数リモート ホストへのインストール.....	11
キーボード サポート.....	12
初回実行.....	12
初回インストールのためのインストレーション ホストの選択.....	14
初回にインストールするコンポーネントの選択.....	15
GUIを使用したローカル ホスト インストール.....	15
インストレーション ホストの選択.....	16
インストールするコンポーネントの選択.....	17
インストール結果の表示.....	25
GUIを使用した複数ホスト インストール.....	27
リモート ホストまたはグループの選択.....	27
複数のホストにインストールするコンポーネントの選択.....	36
複数ホストのインストール結果の表示.....	38
スクリプト インストール.....	40
コマンド ライン インタフェース.....	40
コマンド ライン構文.....	40
コマンド ライン引数.....	40
コンポーネントの設定 (Windowsコンポーネントのみ).....	44
コマンド ラインの例.....	44
HP Smart Update Managerのリターン コード.....	45
高度なトピック.....	48
ファームウェアとソフトウェアの同時インストール.....	48
サーバの仮想化の検出とサポート.....	49
HP Smart Update Managerとともに使用する場合のIPv6ネットワークの構成.....	49
Windows Server 2003でのIPv6の構成.....	49
Windows Server 2008でのIPv6の構成.....	52
LinuxでのIPv6の構成.....	54
トラブルシューティング.....	56

ROMのアップグレードが失敗した場合の復旧.....	56
システムROMのアップグレードが失敗した場合の復旧.....	56
オプションROMのアップグレードが失敗した場合の復旧.....	57
インストールが失敗した後の復旧.....	58
トレース ディレクトリの収集.....	58
Linuxリモート機能が使用できなくなった場合の復旧.....	58
ファイアウォール設定.....	58
Microsoft Windows上のブロックされたプログラムの復旧.....	59
Windowsファイアウォール設定.....	59
HP Smart Update Managerでのポートの有効化.....	59
日本語文字セット使用時のオペレーティング システムの制限による問題からの復旧.....	61
Linuxオペレーティング システム上での実行時に、日本語文字セットを使ってユーザが指定した 再起動メッセージを表示する.....	61
Windowsオペレーティング システム上での実行時に、日本語文字セットを使ってユーザが指定した 再起動メッセージで再起動する.....	61
「致命的なエラー - アプリケーションを終了します」メッセージからの復旧.....	62
ダブルバイト文字を含むディレクトリ パスでの実行.....	62
SUSE LINUX Enterprise Server 9上での実行時に再起動メッセージが表示されない問題の解決.....	62
SUSE LINUX Enterprise Server 9上でのHP Smart Update Managerの実行.....	62
切断されたHP Smart Update Manager接続の復旧.....	62
Firmware Maintenance CDの仮想メディアへのマウント.....	62
IPv6ネットワークでのHP Smart Update Managerのトラブルシューティング.....	63
IPv6/Windows Server 2003環境でのHP Smart Update Managerのトラブルシューティング.....	63
IPv6/Windows Server 2008環境でのHP Smart Update Managerのトラブルシューティング.....	64
IPv6/Red HatおよびNovell SUSEベースLinux環境でのHP Smart Update Managerのトラブルシューティング ..	64
テクニカル サポート.....	65
参照資料.....	65
オペレーティング システム情報.....	65
頭字語と略語.....	66
索引.....	68

はじめに

HP ProLiant Firmware Maintenance CDの概要

HP ProLiant Firmware Maintenance CDは、ご使用のProLiantサーバおよびオプションのファームウェアを1つにまとめて提供します。Firmware Maintenance CD 7.50からHP Smart Update Managerユーティリティを使用すると、Microsoft® Windows®およびLinux環境の両方でサポートされている、単一の使いやすいインタフェースを介して、ファームウェアコンポーネントをインストールできます。このユーティリティは、既存のファームウェアコンポーネントを従来どおりサポートしながら、ファームウェアのインストールプロセスを簡素化します。また、依存関係を調べて、適切な更新をインストールし、最適化されたシステム構成を実現する、インストール機能およびバージョンの制御機能を備えています。

Firmware Maintenance CDの内容をインストールするには、「オンラインインストール」(7ページ)および「オフラインインストール」(7ページ)を参照してください。



注意：Firmware Maintenance CDとその内容は、使用に関する十分な経験と知識を持っている方だけが使用するようにしてください。障害が発生した場合でもミッションクリティカルなシステムへの影響を抑えるために、HP Smart Update Managerを使用してファームウェアを更新する前に必ず、ターゲットサーバのバックアップをとり、他の必要な予防措置をすべて実行してください。

HP Smart Update Managerは、ホスト情報とグループ情報をセッションごとに保存します。ただし、ユーザ名、パスワード、および既存の認証情報は保存されません。

最小要件

HP Smart Update ManagerをMicrosoft® Windows®オペレーティングシステムベースのターゲットシステムに正常にインストールするには、以下の要件を満たす必要があります。

- サポートされているWindows®オペレーティングシステムが動作し、512MBのメモリを搭載するローカル管理システム
- ハードディスクドライブの十分な空き容量。インストールするコンポーネントのファイルサイズの2倍以上の容量
- WMIが有効

注：Windows Server® 2008の任意のエディションで、HP Smart Update Managerのリモートインストール機能を使用してみる場合、ファイル/プリントサービス機能が有効になっていることとWindows®ファイアウォールでファイル/プリントサービスが例外に設定されていることを確認してください。このような設定になっていない場合、HP Smart Update ManagerはリモートのWindows®ターゲットサーバをデプロイメントできません。

HP Smart Update ManagerをLinuxオペレーティングシステムベースのターゲットシステムに正常にインストールするには、以下の要件を満たす必要があります。

- サポートされているLinuxオペレーティングシステムが動作し、512MBのメモリを搭載するローカル管理システム
- glibc 2.2.4-26以上
- gawk 3.1.0-3以上

- sed 3.02-10以上
- pciutils-2.1.8-25.i386.rpm以上

HP Smart Update ManagerをLinuxオペレーティング システム ベースのリモート ターゲット システムで正常にアップデートするには、以下の要件を満たす必要があります。

- tcl-8.xパッケージ
- tcl-5.xパッケージ
- expect-5.xパッケージ



重要 : HP Smart Update Managerは、クロスプラットフォーム インストール (LinuxシステムからWindows®システムへのインストールなど) をサポートしていません。

HP ProLiant Firmware Maintenance CDの入手

ProLiant Firmware Maintenance CDは、ProLiant Essentials Foundation Packに含まれるコンポーネントとして、HPのWebサイト<http://www.hp.com/jp/support>から無償でダウンロードできます。HP Smart Update Managerユーティリティは、ProLiant Firmware Maintenance CDから入手できます。

インストール オプション

Firmware Maintenance CDは、オンラインまたはオフラインで実行できます。

オンラインでインストールを行う場合は、すでにインストールされ動作しているオペレーティング システムからサーバを起動する必要があります。

インストール	サポートされるシステム
オンライン インストール	<p>HP Smart Update Managerは、Windows®およびLinux用の次に示すすべてのROMフラッシュ コンポーネントのオンライン インストールをサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • HP c-Class BladeSystem用のHP Onboard Administrator • システム ハードディスク ドライブ (SASおよびSATA) • アレイ コントローラ • Lights-Out Management ROMフラッシュ コンポーネント

注 : Onboard Administratorは、オンライン インストールでのみサポートされます。

オフラインでインストールを行う場合は、Firmware Maintenance CDまたはFirmware Maintenance CDの内容を含むUSBドライブ キーからサーバを起動できます。

インストール	サポートされるシステム
オフラインインストール	<p>HP Smart Update Managerは、次に示すすべてのROMフラッシュ コンポーネントのオフライン インストールをサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> システム ハードディスク ドライブ アレイ コントローラ QlogicおよびEmulexのファイバ チャネルHBA Lights-Out Management ROMフラッシュ コンポーネント

注：ファームウェア コンポーネントは、USBドライブ キーの/compaq/swpackagesディレクトリに追加できます。

オンライン インストール

コンポーネントをオンラインでインストールするには、以下の手順に従ってください。

- 次のいずれかのオプションを選択します。
 - Firmware Maintenance CDを挿入します。Firmware Maintenance CDインタフェースが起動します。

注：Linuxでは、自動起動が有効になっていない場合、Firmware Maintenance CDを手動で起動する必要があります。
 - USBドライブ キーを挿入します。インタフェースを手動で起動して、CLIを開きます。Firmware Maintenance CDにアクセスするには、次のいずれかのコマンドを入力します。
 - Windows®では、_autorun\autorun_winと入力します。
 - Linuxでは、/autorunと入力します。
- エンド ユーザ使用許諾契約書を読みます。続行するには、**[同意]**をクリックします。Firmware Maintenance CDインタフェースが表示されます。
- [ファームウェア アップデート]**タブをクリックします。
- [ファームウェアのインストール]**をクリックします。HP Smart Update Managerが起動します。
- コンポーネントを選択してインストールします。詳しくは「GUIを使用したローカル ホスト インストール」(15ページ) または「GUIを使用した複数ホスト インストール」(27ページ) を参照してください。

オフライン インストール

コンポーネントをオフラインでインストールするには、以下の手順に従ってください。

- Firmware Maintenance CDまたはUSBドライブ キーからサーバを起動します。
- プロンプトで、言語とキーボードを選択します。
- [続行]**をクリックします。
- エンド ユーザ使用許諾契約書を読みます。続行するには、**[同意]**をクリックします。Firmware Maintenance CDインタフェースが表示されます。
- [ファームウェア アップデート]**タブをクリックします。
- [ファームウェアのインストール]**をクリックします。HP Smart Update Managerが起動します。
- コンポーネントを選択してインストールします。詳しくは「GUIを使用したローカル ホスト インストール」(15ページ) または「GUIを使用した複数ホスト インストール」(27ページ) を参照してください。

HP USB key utility

HP USB Key Utilityは、Firmware Maintenance CDの内容のUSBメモリ キーへのコピーを可能にするWindows®アプリケーションです。コピー後のFirmware Maintenanceアプリケーションは、CDからではなくUSBキーから実行できます。

Windowsのユーザが起動可能なCDを作成する場合は、以下の手順に従ってください。

1. USB Key UtilityのSmartコンポーネントをハードディスク ドライブ上のディレクトリにダウンロードして、そのディレクトリに移動します。ダウンロードしたファイルは、自己解凍形式の実行可能ファイルで、USB Key UtilityのSmartコンポーネント番号に基づく名前が付いています。
2. ダウンロード先のドライブ/ディレクトリで、ダウンロードしたファイルを実行します。

Firmware Maintenance CDに収録されていないコンポーネントのインストール

Firmware Maintenance CDに収録されていないコンポーネントがある場合、新しいコンポーネントをHP Smart Update Managerに追加できます。Firmware Maintenance CDに収録されていないソフトウェアおよびファームウェアコンポーネントをインストールするには、以下の手順に従ってください。

1. HPのWebサイト<http://www.hp.com/jp>からコンポーネントを入手します。
2. 起動可能なUSBキーを作成（8ページの「HP USB key utility」を参照）するかまたは\compaq\swpackagesディレクトリをハードディスク ドライブにコピーして、読み取り専用の属性を外します。

Trusted Platform Module

TPMは、BitLockerと組み合わせて使用するモジュールで、システムの状態を評価し、ROMイメージの変更を検出すると、ユーザがリカバリ キーを提供できない場合はWindows®ファイル システムへのアクセスを制限します。HP Smart Update Managerは、システムでTPMが有効になっているかどうかを検出します。ProLiantのいくつかの新しいモデルでは、システムまたはターゲットとして選択されたリモート サーバでTPMが検出されると、フラッシュの前にiLO、Smartアレイ、およびBIOS用のHP Smart Update Managerユーティリティがユーザに警告を行います。ユーザが一時的なBitLockerの無効化もフラッシュのキャンセルも行わない場合、再起動後、ユーザ データにアクセスするにはBitLockerのリカバリ キーが必要になります。

リカバリ イベントは、次の場合に発生します。

- Microsoft BitLockerのドライブ暗号化を使用する際、システムBIOSのフラッシュの前に、ユーザがBitLockerを一時的に無効にしなかった場合
- ユーザがiLO、Smartアレイ、およびNICファームウェアの評価を選択した場合

HP Smart Update ManagerがTPMを検出すると、警告メッセージがポップアップ表示されます。



TPMシナリオ

TPMが検出された場合、次の表に示すような状況が発生する可能性があります。

シナリオ	結果
TPMが検出され有効。インストールがサイレントインストールではなく、システムROMのアップデートが必要な場合	警告メッセージがポップアップ表示されます。 [OK] を選択すると、作業を続行できます。インストールは取り消されません。
TPMが検出され有効。インストールはサイレントインストール。/tpmbypassスイッチが指定されておらず、更新されたファームウェアがあればすべてサーバに適用する必要がある場合	警告は表示されません。新しいログファイル (%systemdrive%\cpqsystem\log\cpqstub.log) が生成されます。サイレントインストールが行われているので、インストールは終了し続行できません。
TPMが検出され、オプションROMの評価に使用できる。インストールはサイレントインストールではなく、システムROMの更新が必要な場合	警告メッセージがポップアップ表示されます。 [OK] を選択すると、作業を続行できます。インストールは取り消されません。
TPMが検出され、オプションROMの評価に使用できる。インストールはサイレントインストールで、/tpmbypassスイッチが指定されておらず、更新されたファームウェアがあればすべてサーバに適用する必要がある場合	警告は表示されません。新しいログファイル (%systemdrive%\cpqsystem\log\cpqstub.log) が生成されます。サイレントインストールが行われているので、インストールは終了し続行できません。
TPMが検出され有効。インストールはサイレントインストールで、/tpmbypassスイッチが指定されている場合	インストールは行われます。

この他の状況は、通常のインストール手順には影響しません。

HP Smart Update Managerにより強化された Firmware Maintenance CD

インストール シナリオ

HP Smart Update Managerは、Smartファームウェア コンポーネントをローカル ホストあるいは単一または複数のリモート ホストにインストールします。リモート ホストにインストールを行うには、リモート ホストがオンラインで、HP Smart Update Managerシステムと同じオペレーティング システムが動作していなければなりません。たとえば、リモート ホストでLinuxが動作している場合は、HP Smart Update ManagerもLinuxオペレーティング システム上で動作していなければなりません。HP Smart Update Managerは、次のオペレーティング システムをサポートします。

- Windows Server® 2003
- Windows Server® 2003 x64
- Windows Server® 2008
- Windows Server® 2008 x64
- Red Hat Enterprise Linux 4
- Red Hat Enterprise Linux 5
- SUSE Linux Enterprise Server 9
- SUSE Linux Enterprise Server 10 x86

次の表に、HP Smart Update Managerを使用した一般的なインストール シナリオを示します。

シナリオ	説明
ローカル ホストでのグラフィカルインストール	次の場合には、このシナリオを使用してください。 <ul style="list-style-type: none">• コマンドライン ツールを使い慣れていない。• 単一のローカル ホストにコンポーネントをインストールする。• スクリプトは必要でない。
ローカル ホストでのスクリプトインストール	次の場合には、このシナリオを使用してください。 <ul style="list-style-type: none">• コマンドライン ツールを使い慣れている。• 単一のローカル ホストにコンポーネントをインストールする。• カスタマイズされたスクリプト インストールを実行する必要がある。
リモート ホストへのグラフィカルインストール	次の場合には、このシナリオを使用してください。 <ul style="list-style-type: none">• コマンドライン ツールを使い慣れていない。• 単一または複数のリモート ホストにコンポーネントをインストールする。• スクリプトは必要でない。

シナリオ	説明
リモート ホストへのスクリプトインストール	<p>次の場合には、このシナリオを使用してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • コマンドライン ツールを使い慣れている。 • 単一または複数のホストにコンポーネントをインストールする。 • 単一または複数のホスト システムに、カスタマイズされたスクリプトインストールを実行する必要がある。

ローカル ホストでのグラフィカル インストール

単一のローカル ホストにコンポーネントを簡単な手順でインストールするには、HP Smart Update Manager GUIを使用します。

GUIを使用してコンポーネントをローカル ホストにインストールするには、以下の手順に従ってください。

1. 「最小要件」 (5ページ) に示されているすべての最小要件が満たされていることを確認します。
2. インストールするコンポーネントにローカル ホストからアクセスできることと、コンポーネントがHP Smart Update Managerと同じディレクトリに配置されていることを確認します。

GUIによるインストールの実行については、「GUIを使用したローカル ホスト インストール」 (15ページ) を参照してください。

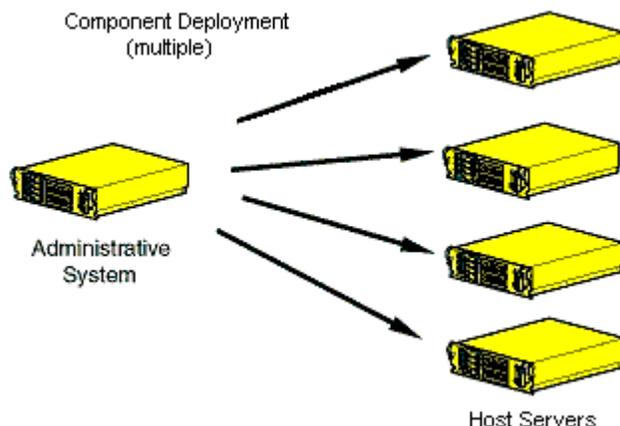
ローカル ホストでのスクリプト インストール

コマンドライン インタフェースを使用してコンポーネントをローカル ホストにインストールするには、以下の手順に従ってください。

1. 「最小要件」 (5ページ) に示されているすべての最小要件が満たされていることを確認します。
2. インストールするコンポーネントにローカル ホストからアクセスできることと、コンポーネントがHP Smart Update Managerと同じディレクトリに配置されていることを確認します。
3. スクリプトを作成してインストールをカスタマイズします。詳しくは、「スクリプト インストール」 (40ページ) を参照してください。
4. スクリプトを実行します。

複数リモート ホストへのインストール

注： リモート ホストは、リモート サーバ、リモートのiLO NICポート、またはBladeSystem Onboard AdministratorのIPアドレスまたはDNS名の可能性があります。



GUIを使用してコンポーネントを複数のリモート ホストにインストールするには、以下の手順に従ってください。

1. 「最小要件」 (5ページ) に示されているすべての最小要件が満たされていることを確認します。
2. インストールするコンポーネントに管理システムからアクセスできることと、コンポーネントがHP Smart Update Managerと同じディレクトリに配置されていることを確認します。

グラフィカル インタフェースによるインストールの実行について詳しくは、「GUIを使用した複数ホスト インストール」 (27ページ) を参照してください。

CLIを使用してコンポーネントを複数のリモート ホストにインストールするには、以下の手順に従ってください。

1. 「最小要件」 (5ページ) に示されているすべての最小要件が満たされていることを確認します。
2. インストールするコンポーネントに管理システムからアクセスできることと、コンポーネントがHP Smart Update Managerと同じディレクトリに配置されていることを確認します。
3. スクリプトを作成してインストールをカスタマイズします。詳しくは、「スクリプト インストール」 (40ページ) を参照してください。
4. スクリプトを実行します。

キーボード サポート

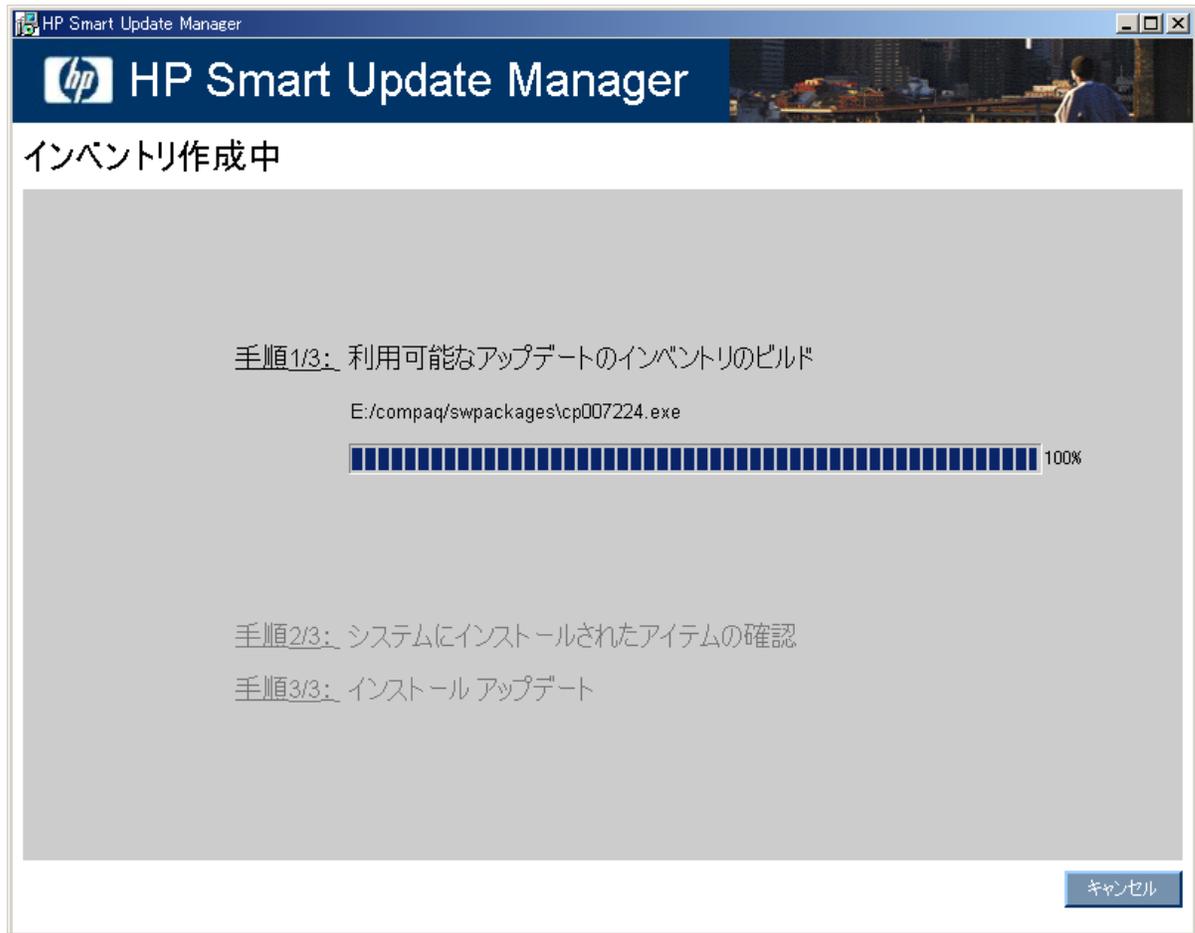
HP Smart Update Managerのグラフィカル ユーザ インタフェースには、よく行われる操作を高速で管理および制御できるようにするための、アクセラレータ キーが用意されています。操作を正しく行うために、次の点に注意してください。

- 一部のオペレーティング システムでは、下線の付いた文字に対応する操作を確認するために、ALTキーを押す必要があります。
- アクセラレータ キーは、**ALT**キーと下線の付いた文字キーを同時に押すことで機能します。
- ホスト、グループなどの項目の選択には**スペース** キーを押します。
- リストからの選択には**タブ** キーを押し、次に**矢印**キーを押してラジオ ボタンを切り替えます。

初回実行

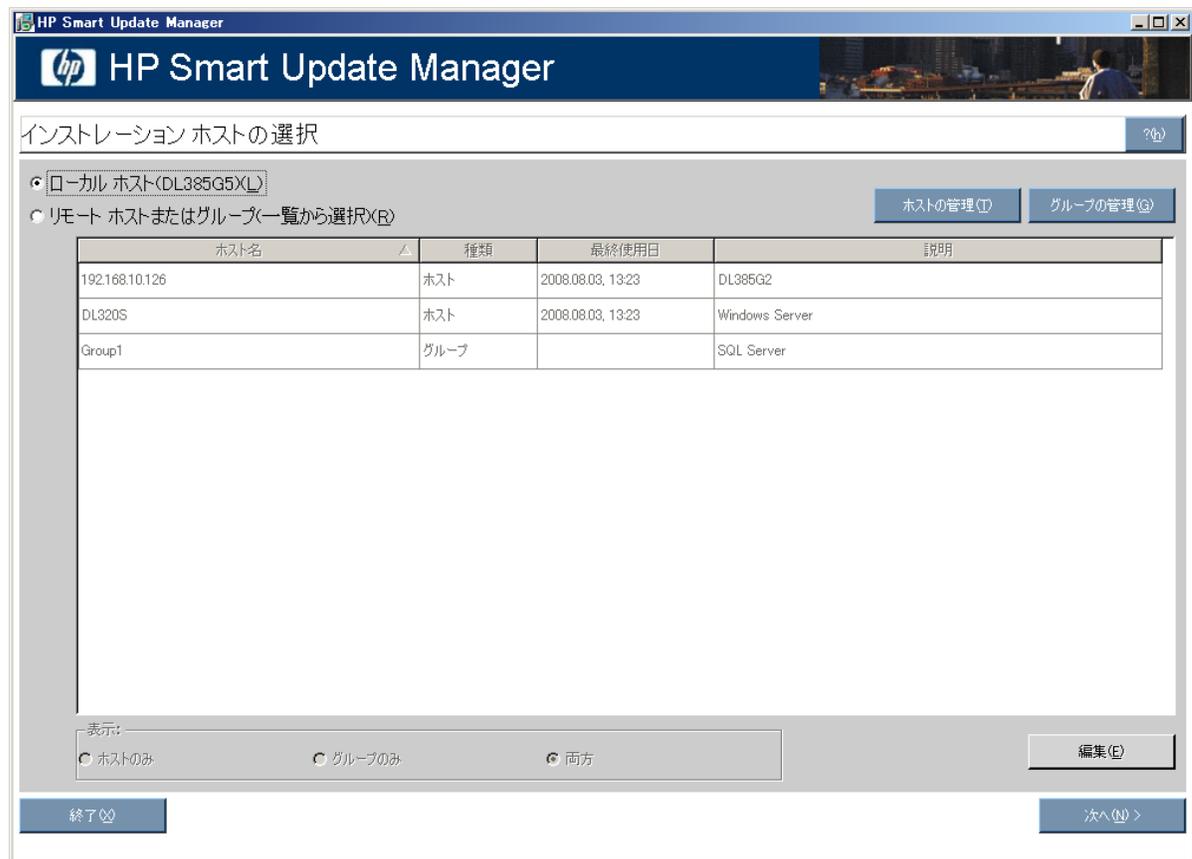
HP Smart Update Managerの使いやすいグラフィカル インタフェースから、ファームウェア コンポーネントをインストールし、管理することができます。HP Smart Update Managerへのアクセスについては、「インストール オプション」 (6ページ) を参照してください。

HP Smart Update Managerが使用可能な更新のインベントリを作成している間、[インベントリ作成中]画面が表示されます。HP Smart Update Managerは、システムをチェックしてインストール済みのアイテムを確認してから、更新をインストールします。



初回インストールのためのインストレーションホストの選択

インベントリプロセス（12ページの「初回実行」を参照）が完了すると、[インストレーションホストの選択]画面が表示されます。



[インストレーションホストの選択]画面で、コンポーネントをインストールするホストを選択できます。システムでHP Smart Update Managerを初めて実行する際、デフォルトでは、ローカルホスト以外は選択できません。ただし、リモートホストをターゲットとして選択するように指定することもできます。複数リモートインストールでのグラフィカルインターフェースの使用については、「GUIを使用した複数ホストインストール」（27ページ）を参照してください。

[インストレーションホストの選択]画面には、以下の欄があります。

- [ホスト名] - ホストのIPアドレスまたはDNS名が表示されます。
- [種類] - システムをホストとグループに分類します。
- [最終使用日] - 最近使用されたホスト順にリストをソートすることができます。
- [説明] - ホストについてユーザが定義した説明が表示されます。

[インストレーションホストの選択]画面で、[リモートホストまたはグループ]オプションを選択する場合、ホストのみ、グループのみ、両方のいずれかを選択して、ホストリストの表示を整理することができます。



[インストレーションホストの選択]画面では、以下のボタンも表示されます。

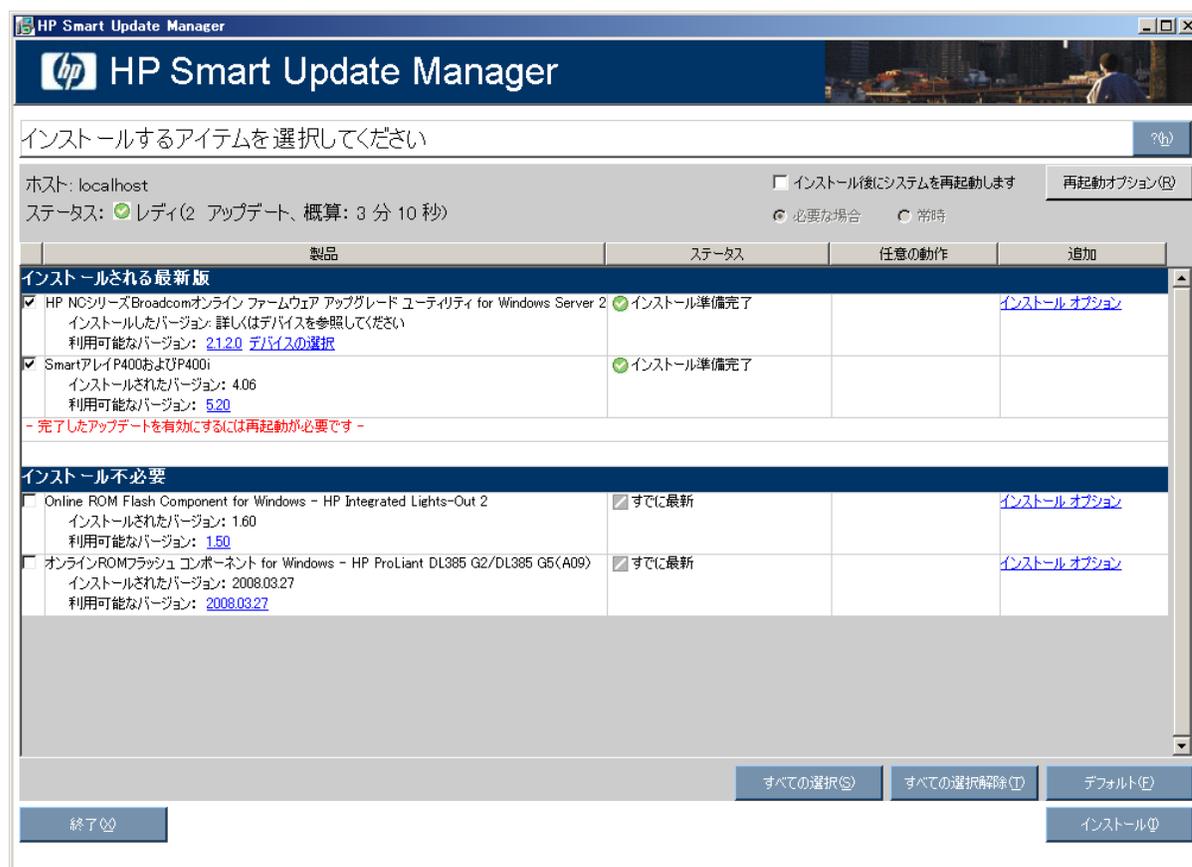
- [ホストの管理] - ホストを追加、編集、および削除できます。

- [グループの管理] - グループを追加、編集、および削除できます。
- [編集] - 選択したホストを編集できます。
- [次へ] - インストール プロセスの次のステップに進みます。ここでは、ローカルまたはリモート システムがインストール済みのアイテムを調べます。
- [終了] - HP Smart Update Managerを終了します。

インストール ホストの選択を続行するには、[次へ]をクリックします。複数リモートインストールの場合は、ホストの認証情報を入力します。[インストールするアイテムを選択してください]画面が表示されます。

初回にインストールするコンポーネントの選択

[インストールするアイテムを選択してください]画面では、システムにインストールできるコンポーネントが表示され、インストールするコンポーネントを選択したり、選択解除したりできます。



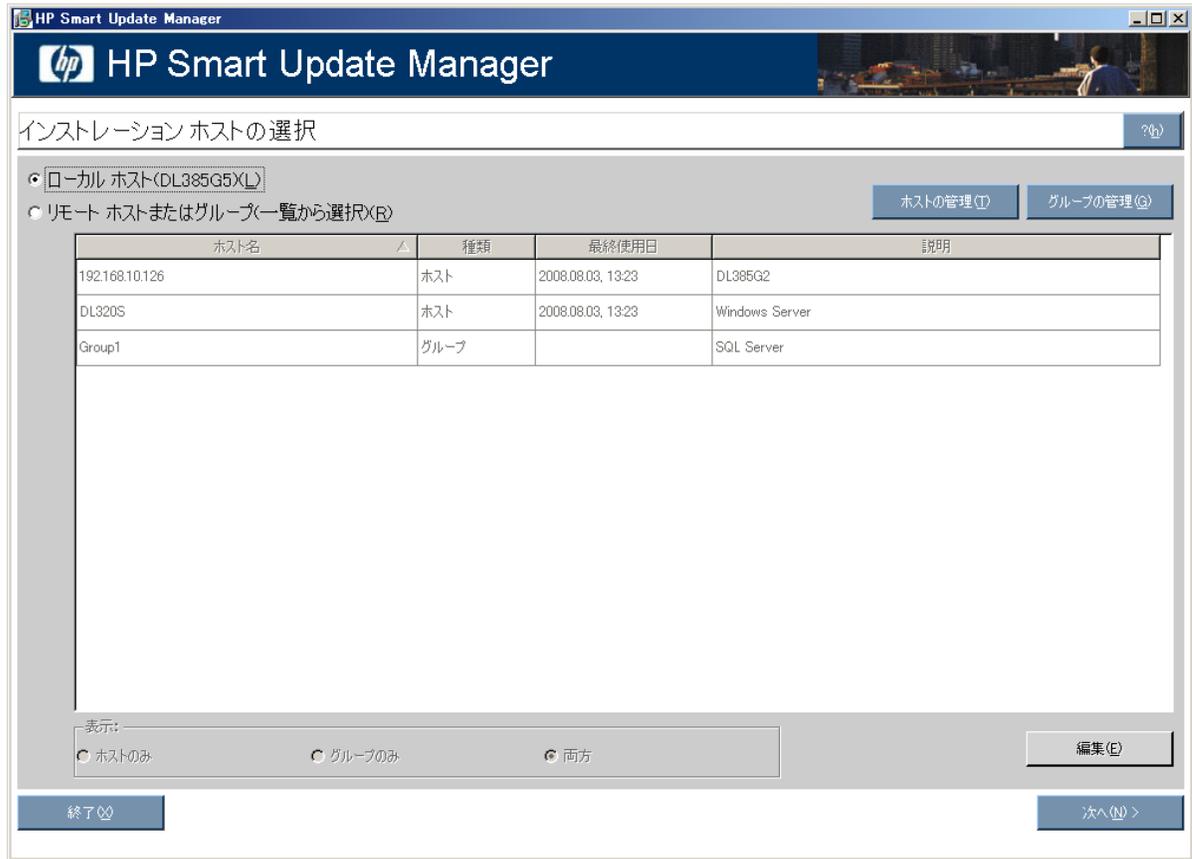
[インストールするアイテムを選択してください]画面とその選択項目について詳しくは、「インストールするコンポーネントの選択」 (17ページ) を参照してください。

GUIを使用したローカル ホスト インストール

HP Smart Update Managerは、Smart コンポーネントをローカル ホストあるいは単一または複数のリモート ホストにインストールできます。Smart Update ManagerのGUIを使用すると、コンポーネントをローカル ホストに簡単にインストールできます。

インストールホストの選択

ローカルホストでインストールプロセスを続行するには、[インストールホストの選択]画面でホストを選択して[次へ]をクリックします。



HP Smart Update Managerがローカルシステムにすでにインストールされているアイテムについて確認する間、[検出プロセス]画面が表示されます。

インストールするコンポーネントの選択

検出プロセス（16ページの「[インストール ホストの選択](#)」を参照）が完了すると、[インストールするアイテムを選択してください]画面が表示されます。



[インストールするアイテムを選択してください]画面には、以下の項が表示されます。

- [製品] - 選択したアイテムがインストールされているシステムが表示されます。
- [ステータス] - インストールの準備ができているかどうかが表示されます。
- 再起動のセクション - 再起動について設定し、どの時点で再起動するかを指定します。
- コンポーネント選択ウィンドウ - インストールするコンポーネントを指定します。

インストールされているNICコンポーネントの一部だけを更新する場合は、表示されるウィンドウで更新するデバイスを選択してください。デバイス用に表示されているNICファームウェアにバージョンがない場合、そのファームウェアをHP Smart Update Managerを使用してデバイスに追加することはできません。

複数のハードウェア デバイス（ハードディスク ドライブ、アレイ コントローラなど）が単一のサーバに存在する場合、HP Smart Update Managerは、各デバイスを1度だけリストに示します。デバイスのファームウェアバージョンが複数ある場合は、そのバージョンは最も古いものから最も新しいものまで1つの範囲で示されます。ファームウェアの複数のインスタンスをインストールに利用できる場合は、最も新しいものから最も古いものまでを含むすべてのインスタンスが示されます。ハードウェア デバイスのファームウェアは、必要な場合、すべてフラッシュされ選択したバージョンに変更されます。

[インストールするアイテムを選択してください]画面では、以下のボタンも表示されます。

- [すべての選択] - 使用可能なすべてのコンポーネントを、インストール対象として選択します。
- [すべての選択解除] - インストール対象として選択されているすべてのコンポーネントの選択を解除します。

- [デフォルト]- 製品インストール ウィンドウの選択項目をデフォルト ビューに戻します。デフォルトはローカル システムの既存の設定に基づいています。
- [終了]- HP Smart Update Managerを終了します。
- [インストール]- 選択されたすべてのコンポーネントをインストールします。
- [サプリメンタル アップデートの追加]- リムーバブル デバイスから、追加のコンポーネントをインストールできます。追加のコンポーネントは、デバイスのルートに保存する必要があります。このボタンは、オフラインインストールの場合のみ使用できます。

注 : HP Smart Update Managerは、自己検出コンポーネントのサプリメンタル アップデートはサポートしません。Firmware CDIにコンポーネントを追加する必要がある場合は、Firmware CDをUSBキーに移行して新しいコンポーネントを\compaq\swpackagesディレクトリに追加する必要があります。Firmware CDのUSBキー バージョンを作成するための方法については、「HP USB key utility」(8ページ)を参照してください。

[インストールするアイテムを選択してください]画面のコンポーネント選択ウィンドウは、システムによって異なるいくつかの項に分かれています。以下の項が含まれます。

- [ユーザにより未選択]- この項のコンポーネントは選択が解除されており、インストールされません。

ユーザにより未選択

<input type="checkbox"/>	HP Virus Throttle for Windows Server 2003 インストールされたバージョン: なし 利用可能なバージョン: 8.600.00	<input checked="" type="checkbox"/> ユーザにより未選択		
<input type="checkbox"/>	HP Version Control Agent for Windows インストールされたバージョン: なし 利用可能なバージョン: 2.1.9.791	<input checked="" type="checkbox"/> ユーザにより未選択		
<input type="checkbox"/>	HP Insightマネジメントエージェント for Windows Server 2003 インストールされたバージョン: なし 利用可能なバージョン: 7.91.00	<input checked="" type="checkbox"/> ユーザにより未選択		

- [インストール不必要]- この項のコンポーネントを更新する必要はありません。ただし、更新することはできません。コンポーネントを更新するには、コンポーネントを選択して[インストール オプション]をクリックします。

インストール不必要

<input type="checkbox"/>	Smart Array P600 インストールされたバージョン: 1.52 利用可能なバージョン: 1.52 (A)	<input checked="" type="checkbox"/> すでに最新		インストール オプション
<input type="checkbox"/>	HP ProLiant DL380 G4 (P51) インストールされたバージョン: 2006.04.26 利用可能なバージョン: 2006.04.26 (B)	<input checked="" type="checkbox"/> すでに最新		インストール オプション
<input type="checkbox"/>	HP NCシリーズBroadcomオンライン ファームウェア アップグレード ユーティリティ for インストールしたバージョン: 詳しくはデバイスを参照してください 利用可能なバージョン: 2.1.0.8 デバイスの選択	<input checked="" type="checkbox"/> すでに最新		インストール オプション

- [フィルタリングにより除外]-この項のコンポーネントは、フィルタリング オプションにより除外されました。[バンドル フィルタの選択]のオプションを使用すると、1つのターゲットで除外するコンポーネントを変更することができます。ターゲットが複数ある場合は、各ターゲットで作業を繰り返す必要があります。

フィルタリングにより除外			
<input type="checkbox"/>	DG036A8B53 and DG072A8B54 drives インストールされたバージョン: HPD3 利用可能なバージョン: HPD7 (A)	<input checked="" type="checkbox"/> ユーザにより未選択	
<input type="checkbox"/>	Smart Array P600 インストールされたバージョン: 1.52 利用可能なバージョン: 1.52 (A)	<input checked="" type="checkbox"/> ユーザにより未選択	
<input type="checkbox"/>	HP ProLiant DL380 G4 (P51) インストールされたバージョン: 2006.04.26 利用可能なバージョン: 2006.04.26 (B)	<input checked="" type="checkbox"/> ユーザにより未選択	

- [インストールされる最新版]-指定したシステムで、この項のコンポーネントをインストールできます。

インストールされる最新版			
<input checked="" type="checkbox"/>	Smartアレイ641/642 インストールされたバージョン: 2.76 利用可能なバージョン: 2.80 (A)	<input checked="" type="checkbox"/> インストール準備完了	
<input checked="" type="checkbox"/>	HP Virus Throttle for Windows Server 2003 インストールされたバージョン: なし 利用可能なバージョン: 8.60.0.0	<input checked="" type="checkbox"/> インストール準備完了	
<input checked="" type="checkbox"/>	HP Insightマネジメントエージェント for Windows Server 2003 インストールされたバージョン: なし 利用可能なバージョン: 7.90.0.0 7.80.0.0	<input type="checkbox"/> 失敗した依存状態 失敗した依存状態を表示	<input type="checkbox"/> 設定可能 今すぐ設定

- [オプションの更新]-この項のコンポーネントは、製品がまだインストールされていない場合やインストールされているが最新のものではない場合でも、デフォルトではインストール対象として選択されません。この項のコンポーネントをインストール セットに含める場合は、そのコンポーネントを選択する必要があります。

オプションの更新			
<input type="checkbox"/>	HP Insight Management WBEM Provider for Windows Server 2003/2008 インストールされたバージョン: 2.3.0.0 利用可能なバージョン: 2.3.0.0		<input type="checkbox"/> 設定可能 今すぐ設定

- [デバイス ドライバがインストールされていません]-システムでこの項のコンポーネントがサポートしているデバイスが検出されていますが、デバイス ドライバがインストールされていません。この項のコンポーネントをインストール対象にするには事前にHP Smart Update Managerの要求に応じてデバイス ドライバをインストールする必要があります。デバイス ドライバをインストールしてください。

デバイスドライバがインストールされていません			
<input type="checkbox"/>	Online ROM Flash Component for Windows - HP Integrated Lights-Out インストールされたバージョン: なし 利用可能なバージョン: 1.91 (B)	<input checked="" type="checkbox"/> サポートされないデバイス	

[ステータス]フィールド

ステータス: 選択されていません

[インストールするアイテムを選択してください]画面の[ステータス]フィールドには、インストールの準備ができていのかどうかが表示されます。

アイコン	テキスト	説明
<input checked="" type="checkbox"/>	レディ	選択されたすべてのコンポーネントをインストールする準備ができました。
<input checked="" type="checkbox"/>	すでに最新	コンポーネントのインストールは不要です。
<input checked="" type="checkbox"/>	選択されていません	インストール対象として選択されているコンポーネントはありません。

アイコン	テキスト	説明
	xクリティカル アクション	コンポーネントxは依存関係に問題があるため、インストールする準備ができません。ここで、xはコンポーネントの番号です。依存関係が適切なものになるかコンポーネントのインストール対象としての選択が解除されるまで、インストール プロセスを進めることができません。

再起動セクション

[インストールするアイテムを選択してください]の再起動セクションでは、希望する再起動の動作について設定できます。

インストール後にシステムを再起動します 再起動オプション

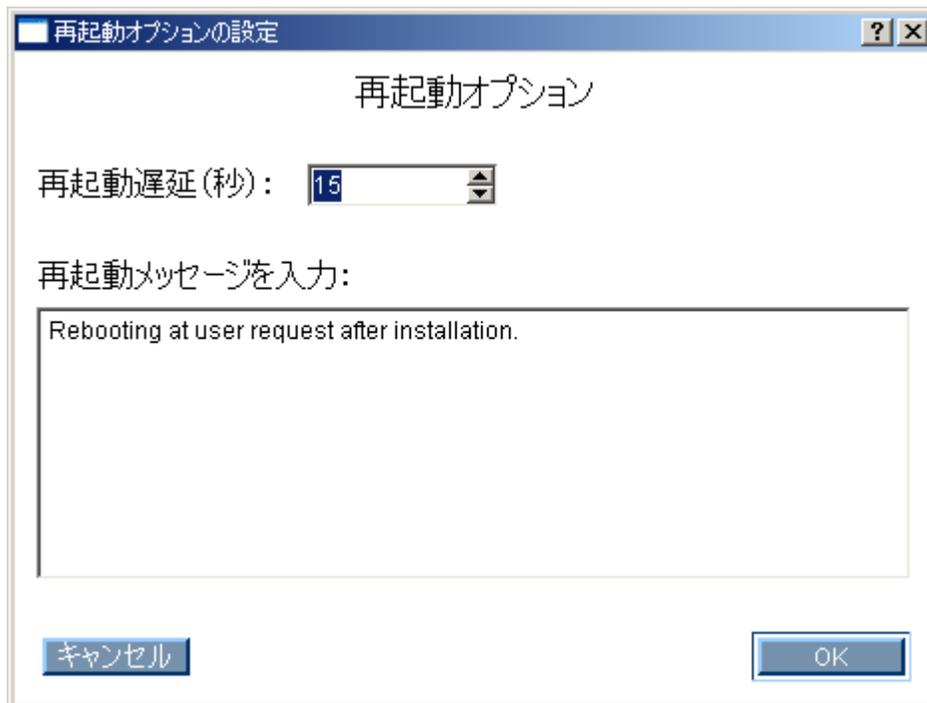
必要な場合 常時

更新がインストールされた後にシステムが再起動するように設定するには、以下の手順に従ってください。

1. **[インストール後にシステムを再起動します]**をクリックします。
2. **[常時]**または**[必要な場合]**をクリックします。

[常時]を選択すると、コンポーネントのインストールが失敗した場合を除いて、システムは必ず再起動します。**[必要な場合]**を選択すると、コンポーネントのインストールが失敗した場合を除いて、少なくとも1つのコンポーネントで必要な場合は再起動が行われます。

再起動までの時間を変更したり、再起動のメッセージを変更したりする場合は、**[再起動オプション]**をクリックします。**[再起動オプションの設定]**画面が表示されます。



再起動オプションの設定

再起動オプション

再起動遅延(秒):

再起動メッセージを入力:

Rebooting at user request after installation.

キャンセル OK

注 : Linuxでは、[再起動遅延]の時間は秒単位から分単位に自動的に変換されます。Linuxの場合、1分未満（59秒以下）の値は切り上げられます。

必要な変更を加え、**[OK]**をクリックします。

コンポーネント選択ウィンドウ

[インストールするアイテムを選択してください]画面のコンポーネント選択ウィンドウでは、サーバとハードウェアオプションに基づいて、インストール可能なコンポーネントが（依存関係によりインストール順が変更される場合を除き、コンポーネント番号順に）すべて表示されます。システムにコンポーネントがインストール済みの場合やインストール後再起動が必要な場合、HP Smart Update Managerは各コンポーネントを調べ、依存関係を確認します。インストール可能な項目はデフォルトで選択されます。インストールを希望しないコンポーネントは選択を解除できます。

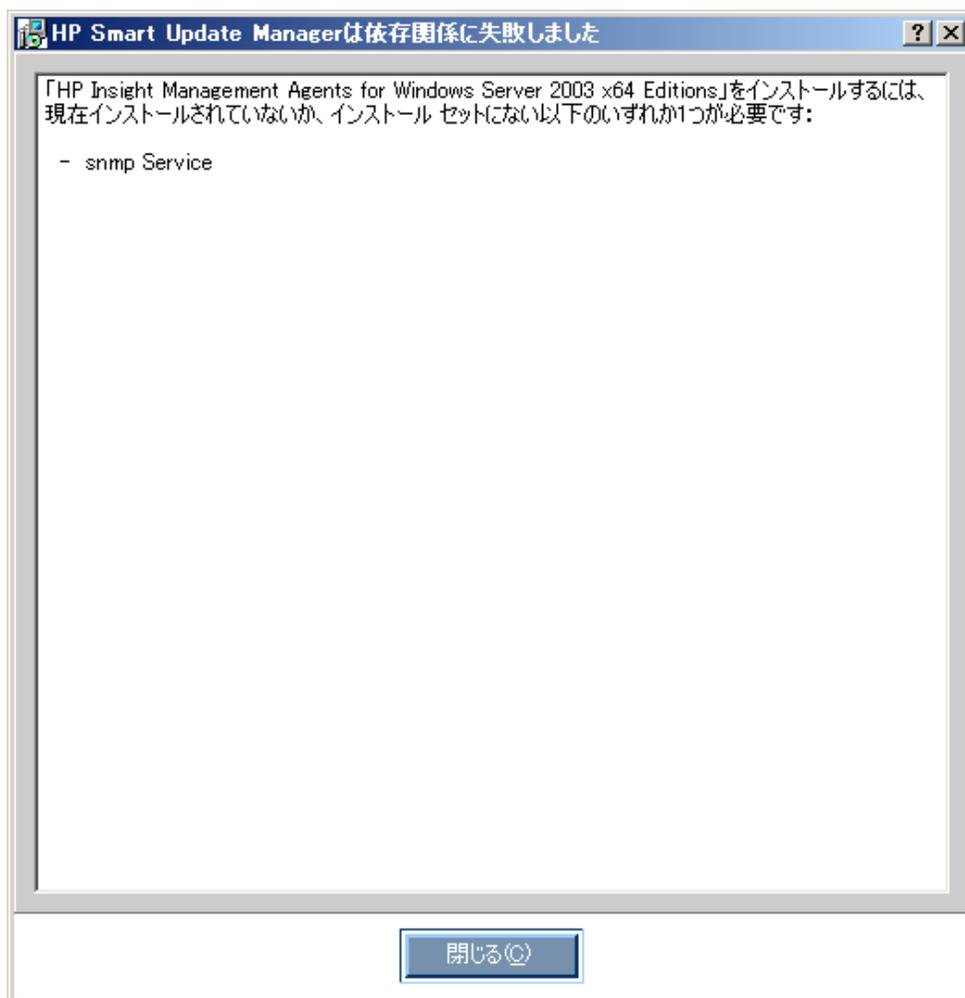
コンポーネント選択ウィンドウは、次の欄に分かれています。

- [製品] - コンポーネントの名前、バージョン番号、コンポーネントの新しいバージョン番号を示します。コンポーネントのバージョンの履歴を確認するには、新しいバージョン番号をクリックしてください。
- [ステータス] - コンポーネントのステータスを表示します。

アイコン	テキスト	説明
	インストール準備完了	コンポーネントをインストールする準備ができました。
	選択されていません	コンポーネントはインストール対象として選択されていません。
	すでに最新	最新のコンポーネントがすでにインストールされています。コンポーネントのダウングレードまたは再書き込みを実行する場合は、 [インストール オプション] をクリックしてください。
	デバイス ドライバがインストールされていません	システムで、この項のコンポーネントがサポートしているファームウェア デバイスが検出されていますが、このデバイスにはデバイス ドライバが必要です。デバイス ドライバをインストールしてください。
	ユーザにより未選択	コンポーネントはインストール対象として選択されていません。
	失敗した依存状態	コンポーネントには適合していない依存関係が存在します。問題のある依存関係の状態を確認するには、 [失敗した依存状態を表示] をクリックしてください。

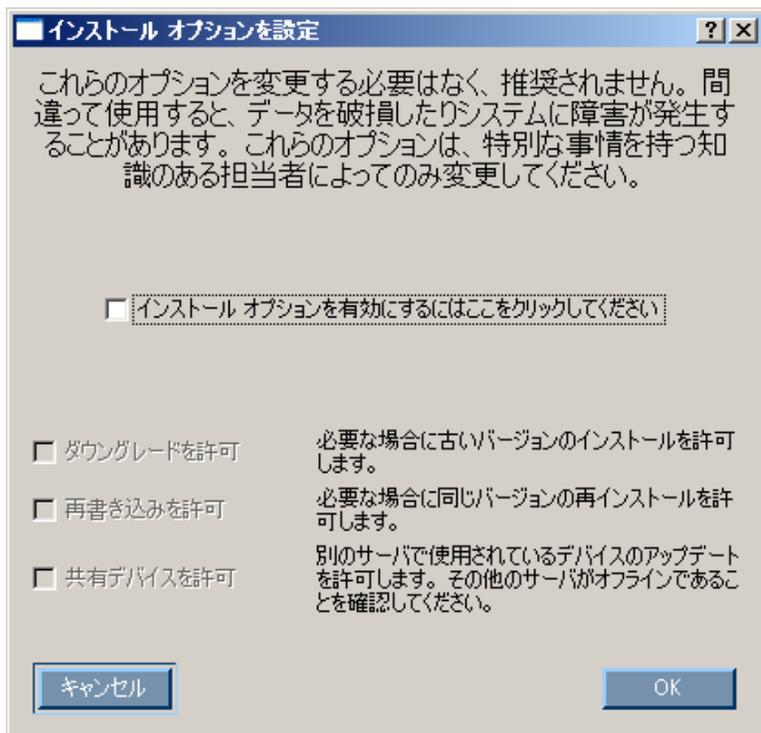
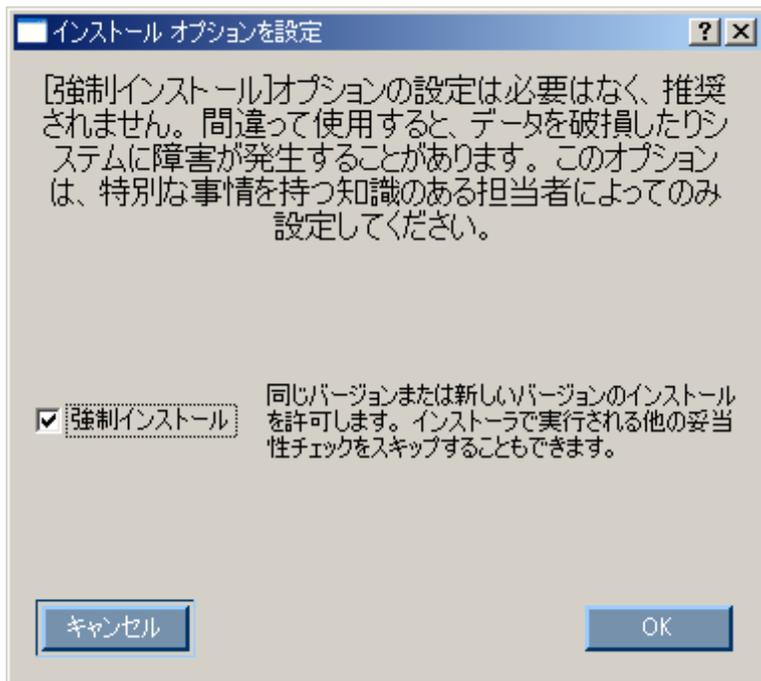
- [任意の動作] - 現在使用されていません。
- [追加] - コンポーネントのインストール オプションと追加情報が表示されます。

失敗した依存状態が発生した場合、インストールの次の手順に進む前にその問題を解決する必要があります。問題の内容によっては、Firmware Maintenance CDまたはHPのWebサイト<http://www.hp.com/jp>でソフトウェアまたはファームウェア コンポーネントを見つける必要があります。次の図は、[失敗した依存状態]画面の一例です。



インストール オプション

[追加]フィールドのオプションから1つ以上を選択して、インストール可能なコンポーネントのファームウェアの更新について設定できます。コンポーネントのタイプにより、以下のいずれかの画面が表示されます。



- 現在のファームウェアを古いバージョンにダウングレードする場合は、**[ダウングレードを許可]**を選択します。
- HP Smart Update Managerが現在のファームウェアのバージョンを同じバージョンで上書きできるようにする場合は、**[再書き込みを許可]**を選択します。
- 共有ストレージ環境でファームウェアをアップグレードする場合は、**[共有デバイスを許可]**を選択します。



注意：使用中の共有デバイスでファームウェアを更新すると、データが消失する場合があります。[共有デバイスを許可]オプションを有効にする前に、選択したデバイスを共有している他のすべてのサーバをオフラインにしてください。

次の表は、ファームウェアの更新に関するオプションを変更すると、ファームウェアの更新結果がどのように変わるかを示しています。この例では、アレイ コントローラとしてHP Smartアレイ6402コントローラが使用されています。

既存のアレイ コントローラにファームウェア バージョン3.00がインストールされている場合、ファームウェアを更新すると、次の表に示す結果になります。

	デフォルト	ダウングレードの場合	再書き込みの場合
ファームウェア アップグレードv3.05	3.05	3.05	3.05
ファームウェア アップグレードv3.10	3.10	3.10	3.10

既存のアレイ コントローラにファームウェア バージョン3.10がインストールされている場合、ファームウェアを更新すると、次の表に示す結果になります。

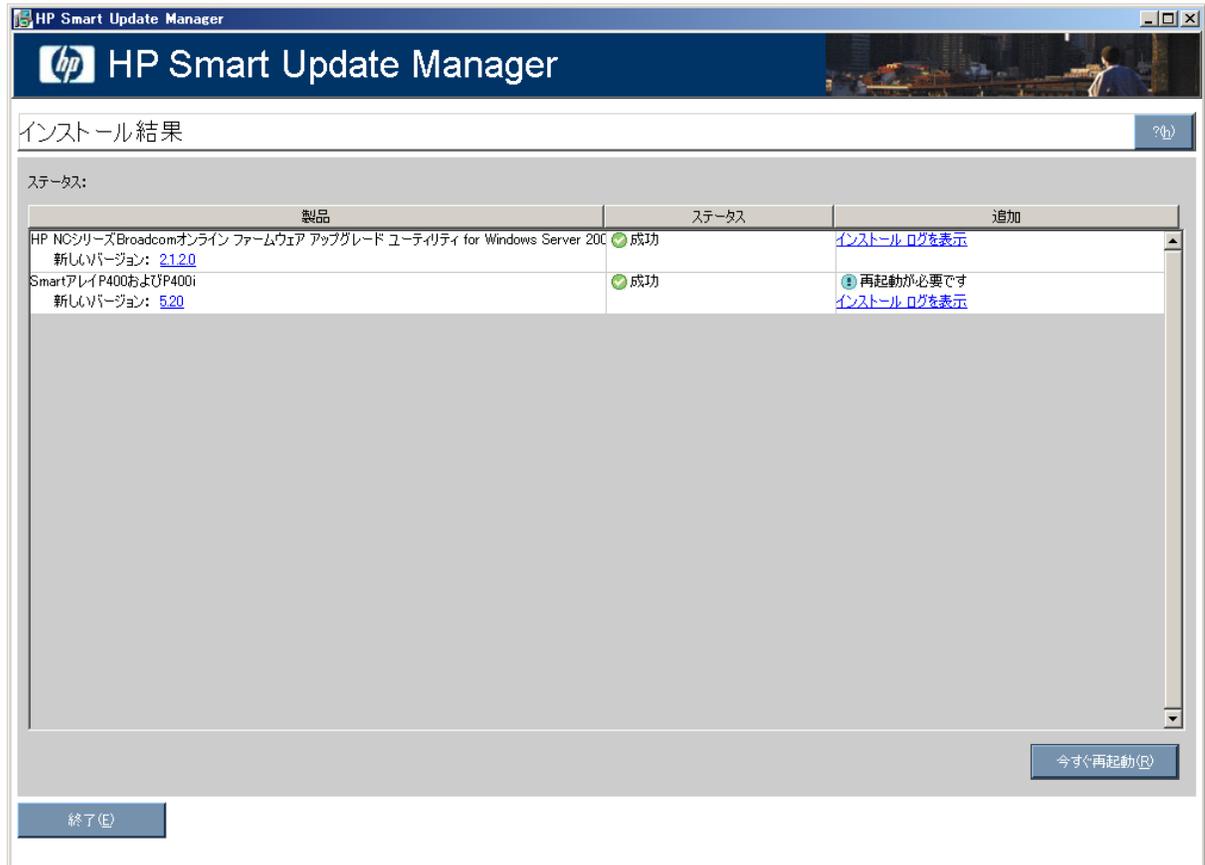
	デフォルト	ダウングレードの場合	再書き込みの場合
ファームウェア アップグレードv3.05	変更なし	3.05	3.10
ファームウェア アップグレードv3.10	変更なし	変更なし	3.10

注：インストールされているNICコンポーネントを更新する場合は、表示されるウィンドウで更新するデバイスを選択してください。

インストールするコンポーネントをすべて選択したら、[インストール]をクリックしてインストールを実行します。[インストール中]画面が表示されます。

インストール結果の表示

インストールが完了すると、[インストール結果]画面が表示されます。



[インストール結果]画面は、次の欄に分かれています。

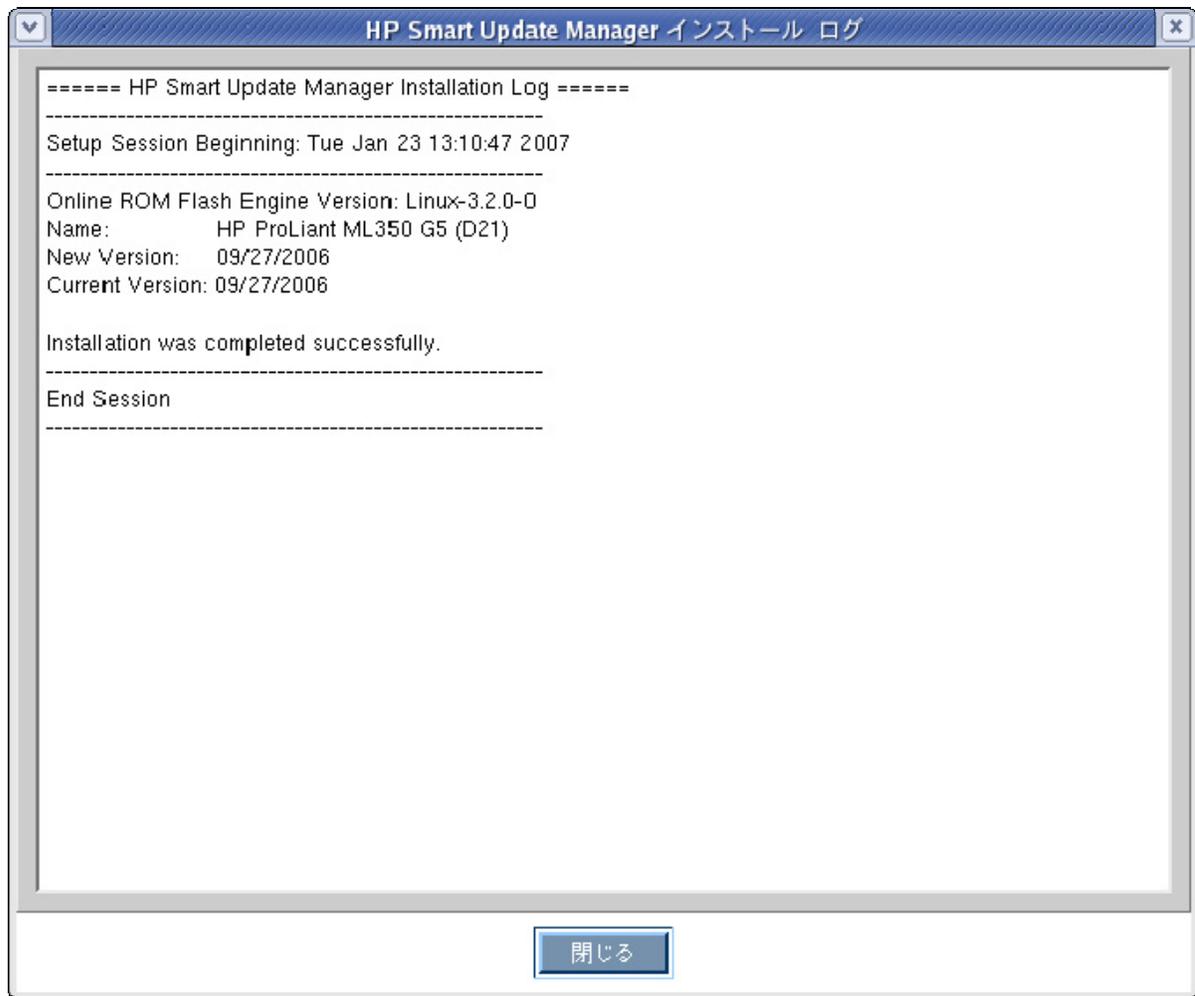
- [製品] - インストールされたコンポーネント名を表示します。コンポーネントのバージョンの履歴を確認するには、バージョン番号をクリックします。
- [ステータス] - コンポーネントのインストールのステータスを表示します。

アイコン	テキスト	説明
	成功	コンポーネントは正常にインストールされました。
	同じ/古いバージョンのインストールに成功しました	既存のコンポーネントは、同じバージョンまたは古いバージョンに正常にダウングレードまたは再インストールされました。
	アップデートでエラーとなりました	更新エラーが発生しました。詳しくは、HP Smart Update Managerのログ ファイルを参照してください。
	インストール失敗	コンポーネントはインストールされませんでした。追加詳細情報を表示するには、 [インストール ログを表示] をクリックします。

- [追加] - 各コンポーネントのインストール ログを確認したり、再起動が必要かどうかを再確認したりすることができます。

アイコン	テキスト	説明
	再起動が必要です。	コンポーネントを有効にするには、サーバを再起動する必要があります。

追加詳細情報を表示するには、[インストール ログを表示]をクリックします。



[インストール結果]画面には、次のボタンもあります。

- [今すぐ再起動] - サーバを再起動します（このボタンは、ローカル インストールでのみ使用できます）。
- [終了] - HP Smart Update Managerを終了します。

注: MSA20などの外付けエンクロージャのハードディスク ドライブを更新したら、そのエンクロージャの電源を切って再度投入してください。HP Smart Update Managerの再起動ボタンでは、サーバを再起動することはできませんが、外付けのエンクロージャの電源を切って再投入することはできません。

更新されている各ホストのインストール作業についての情報を含むインストール ログ（hpsum_log.txtとhpsum_detail_log.txt）があります。hpsum_log.txtログには、インストール作業の概要が記録されます。hpsum_detail_log.txtログには、インストールされるコンポーネントごとに、エラーを含むインストールに関する情報がすべて記録されます。

ログ ファイルは、次の位置にあります。

- Windows®の場合、ローカル ホストのブート パーティションの\CPQSYSTEM\hp\logサブディレクトリ内に各ホストのIPアドレスに基づく名前のサブディレクトリが作られ、そのサブディレクトリにこれらのファイルが格納されます。ローカル ホストの情報を含むディレクトリは、IPアドレスに基づいて名付けられるのではなく、localhostと名付けられます。

- Linuxの場合は、ローカルホストの/var/hp/logサブディレクトリ内に各ホストのIPアドレスに基づく名前のサブディレクトリが作られ、そのサブディレクトリにこれらのファイルが格納されます。ローカルホストの情報を含むディレクトリは、IPアドレスに基づいて名付けられるのではなく、localhostと名付けられます。

GUIを使用した複数ホストインストール

HP Smart Update Managerの使いやすいグラフィカルインターフェースから、ファームウェアコンポーネントをインストールし、管理することができます。HP Smart Update Managerへのアクセスについては、「インストールオプション」（6ページ）を参照してください。

HP Smart Update Managerが使用可能な更新のインベントリを作成している間、[インベントリ作成中]画面が表示されます。インベントリプロセスが完了すると、[インストール ホストの選択]画面が表示されます。

リモートホストまたはグループの選択

[インストール ホストの選択]画面で、コンポーネントをインストールする複数のホストおよびグループを選択できます。ホストには、サーバ、Onboard Administrator、iLO、iLO 2などがあります。

注：ローカルホストをリモートホストを含むリストに含めることやグループに含めることはできません。iLOまたはiLO2をホストとして選択する場合、更新できるのはiLOのファームウェアだけです。同じ物理サーバ上の他のすべてのファームウェアおよびソフトウェアコンポーネントを更新する場合は、サーバホストも選択する必要があります。iLOのファームウェアは、iLOを選択するかまたはサーバホストを選択すれば更新できます。



ホストの追加については、「ホストの管理」（28ページ）を参照してください。グループの追加については、「グループの管理」（31ページ）を参照してください。

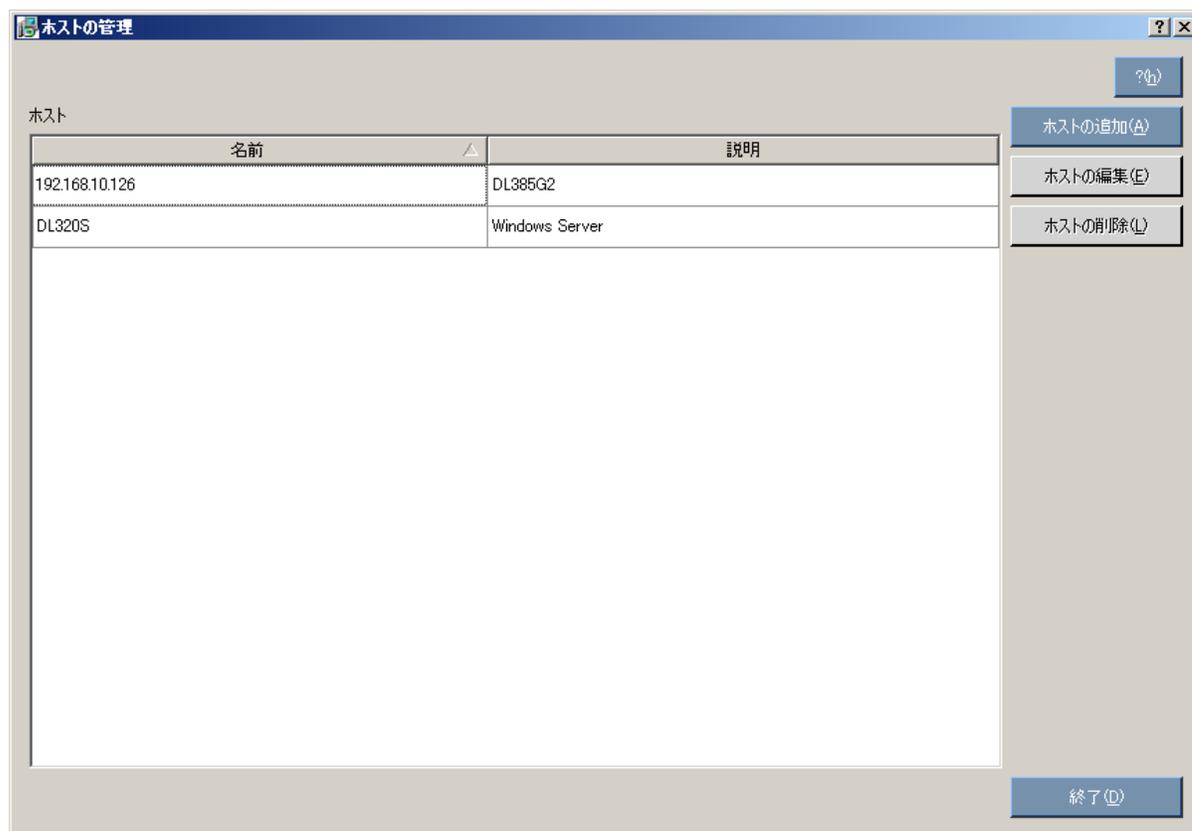
インストール プロセスを進めるには、以下の手順に従ってください。

1. 1つまたは複数のホストまたはグループを選択します。
2. 続行するには、**[次へ]**をクリックします。
3. ホストの認証情報を入力します（34ページの「**ホストの認証情報の入力**」を参照）。
4. **[OK]**をクリックして、「複数のホストにインストールするコンポーネントの選択」（36ページ）に示されている手順に進みます。
5. インストールが完了すると、[インストール結果]画面（38ページの「**複数ホストのインストール結果の表示**」を参照）に複数のホストの結果が表示されます。

ホストの管理

ホストを追加、編集、または削除するには、**[ホストの管理]**ボタンをクリックします。[ホストの管理]画面が表示されます。ホストには、サーバ、Onboard Administrator、iLO、iLO 2などがあります。

注：ローカルホストをリモートホストを含むリストに含めることやグループに含めることはできません。iLOまたはiLO2をホストとして選択する場合、更新できるのはiLOのファームウェアだけです。他のすべてのファームウェアおよびソフトウェアコンポーネントの更新には、サーバホストを選択する必要があります。iLOのファームウェアは、iLOを選択するかまたはサーバホストを選択すれば更新できます。



ホストを追加するには、以下の手順に従ってください。

1. **[ホストの追加]**をクリックします。**[新しいホスト]**ダイアログ ボックスが表示されます。

2. 次の中から、ホストを追加する方法を選択します。
 - 追加するホストのDNS名を入力します。
 - 追加するホストのIPアドレスを入力します。
 - 追加するホストのIPアドレス範囲を入力します。範囲の開始IPアドレスと終了IPアドレスが同じサブネットに属していなければなりません。IPv6形式を使用する場合は、終了IPアドレスの最後のフィールドは32ターゲットに限定されます。

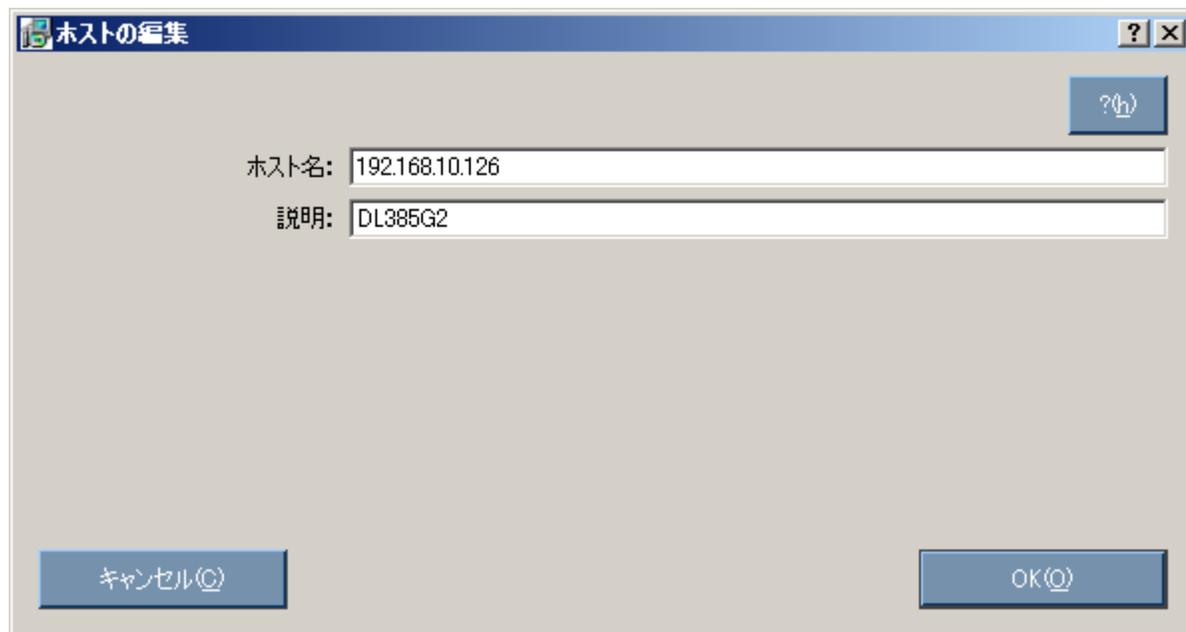
注： いずれかのIPアドレス オプションを使用してホストを追加する場合、IPアドレスの形式としてIPv4 またはIPv6を選択できます。現在のインターネット プロトコルはIPv4形式であるため、この形式がデフォルト オプションになります。IPv6形式は次世代のインターネット プロトコルです。

3. 追加するホストについてユーザが定義する説明（オプション）を入力します。
4. **[OK]**をクリックします。

新しいホストが、**[インストレーション ホストの選択]**画面のリストに追加されます。

既存のホストを編集するには、以下の手順に従ってください。

1. [ホストの管理]画面で[ホストの編集]ボタンをクリックします。[ホストの編集]ダイアログボックスが表示されます。



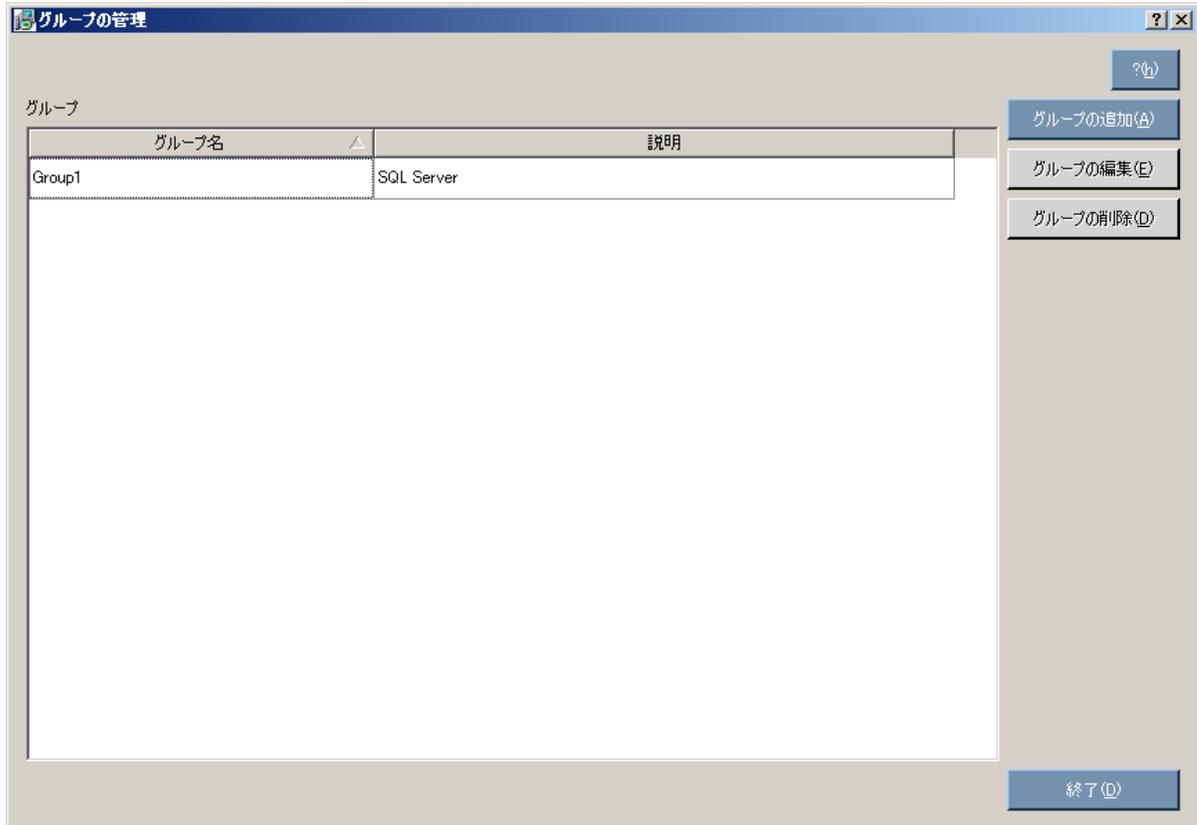
2. [ホスト名]および[説明]を編集します。
3. **[OK]**をクリックします。

ホストを削除するには、以下の手順に従ってください。

1. [ホストの管理]画面で[ホストの削除]ボタンをクリックします。
2. 確認画面が表示されたら、**[はい]**をクリックします。

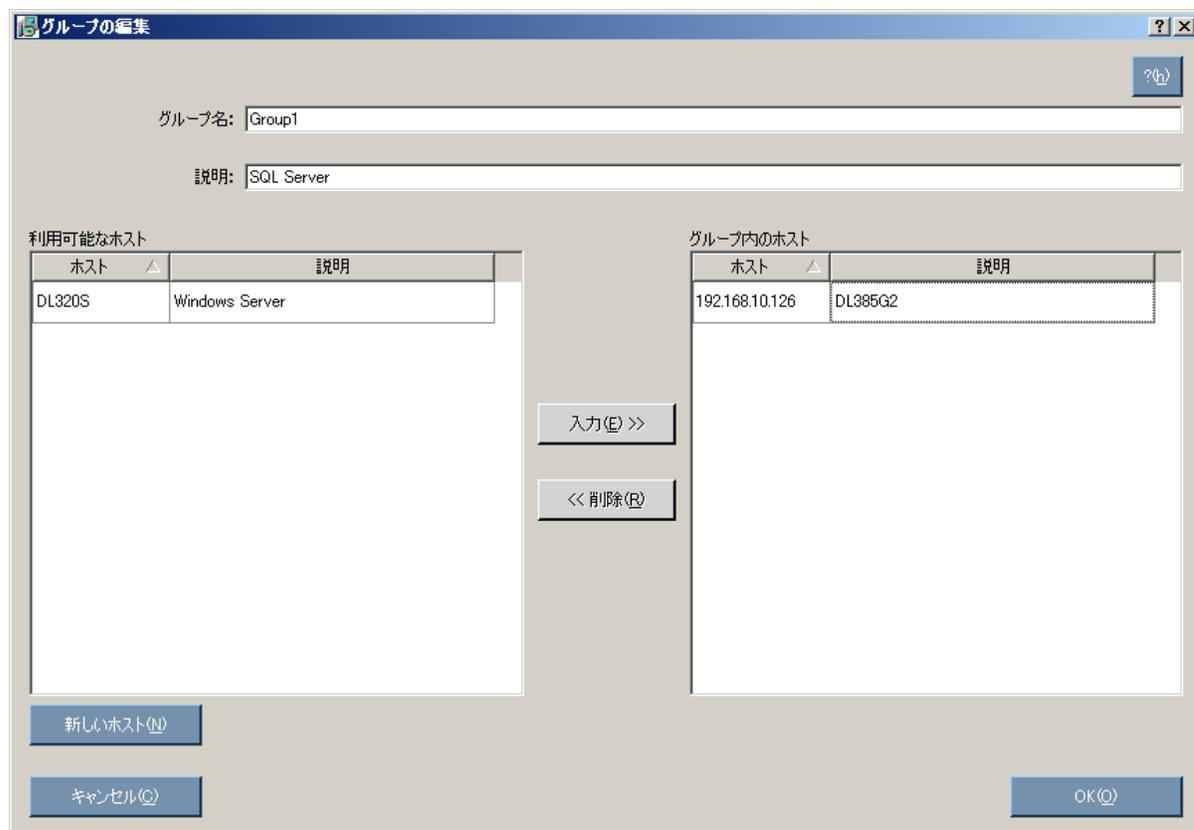
グループの管理

グループを追加、編集、または削除するには、**[グループの管理]**ボタンをクリックします。[グループの管理]画面が表示されます。



グループを追加するには、以下の手順に従ってください。

1. **[グループの追加]**をクリックします。**[グループの編集]**ダイアログ ボックスが表示されます。

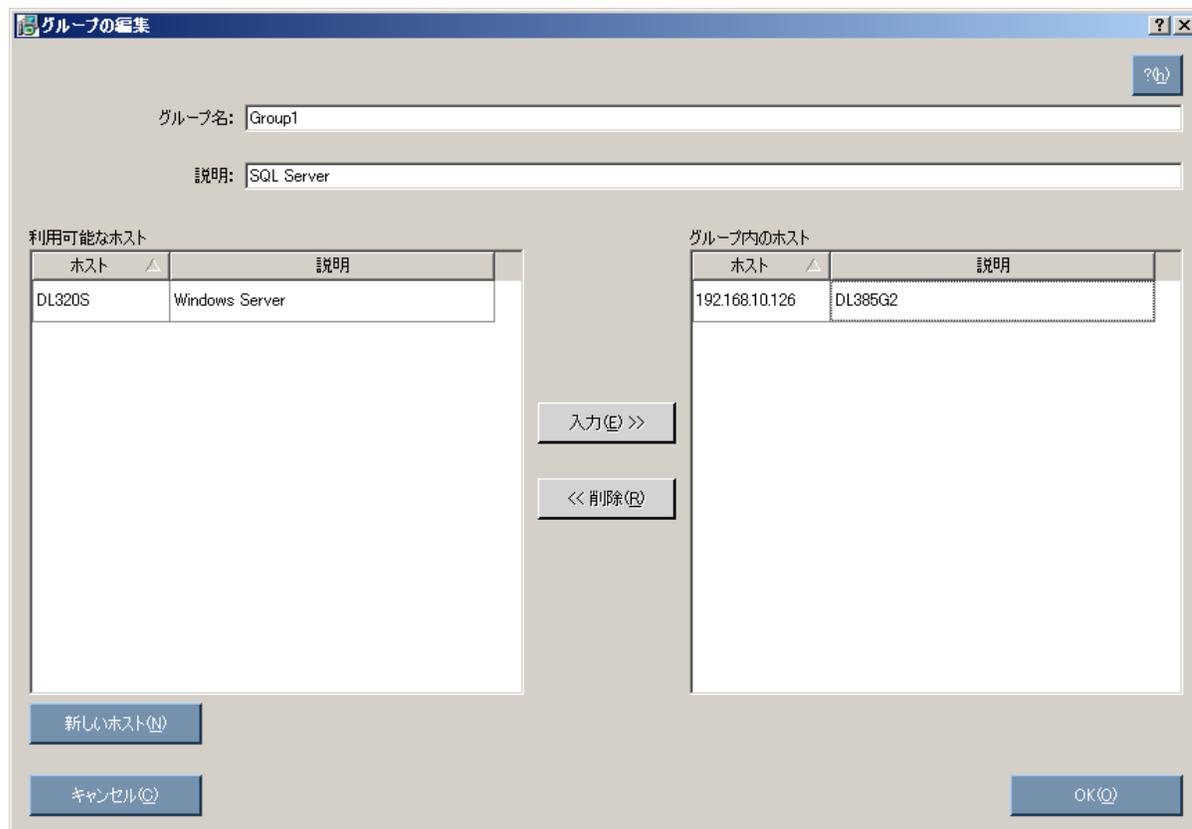


2. グループの名前を入力します。
3. 追加するグループについてユーザが定義する説明（オプション）を入力します。
4. [利用可能なホスト]ウィンドウから、グループに追加するホストを選択します。**[新しいホスト]**ボタンをクリックして、この画面から新しいホストを追加できます。ホストの追加については、「ホストの管理」（28 ページ）を参照してください。
5. **[入力]**ボタンをクリックして、選択したホストを新しいグループに移動します。
6. **[OK]**をクリックします。

新しいグループが、[インストレーション ホストの選択]画面のリストに追加されます。

既存のグループを編集するには、以下の手順に従ってください。

1. [グループの管理]画面で、グループを選択して、[グループの編集]ボタンをクリックします。[グループの編集]ダイアログボックスが表示されます。



2. 必要に応じてグループ名を編集します。
3. 必要に応じて、ホストについてユーザが定義する説明（オプション）を編集します。
4. 必要に応じて、[入力]および[削除]ボタンをクリックして、ホストを追加または削除します。
5. [OK]をクリックします。

グループを削除するには、以下の手順に従ってください。

1. [グループの管理]画面でグループを選択して、[グループの削除]ボタンをクリックします。
2. 確認画面が表示されたら、[はい]をクリックします。

ホストの認証情報の入力

単一のリモート ホストを選択すると、[ホストの証明情報の入力]画面が表示されます。ホストに対する認証情報としてユーザ名とパスワードを入力する必要があります。

ホストの証明情報の入力: 192.168.10.126

ホスト: 192.168.10.126

ユーザ名およびパスワードの入力(E)

ユーザ名: administrator

パスワード: ●●●●●●●●

現在の証明情報の使用(ホストと既存の信頼関係が必要)(S)

リモート ホスト上でアクティブ アップデート プロセスが検出された場合、HPSUMは:

ホストをスキップ

アップデートを再開

キャンセル(C) OK(O)

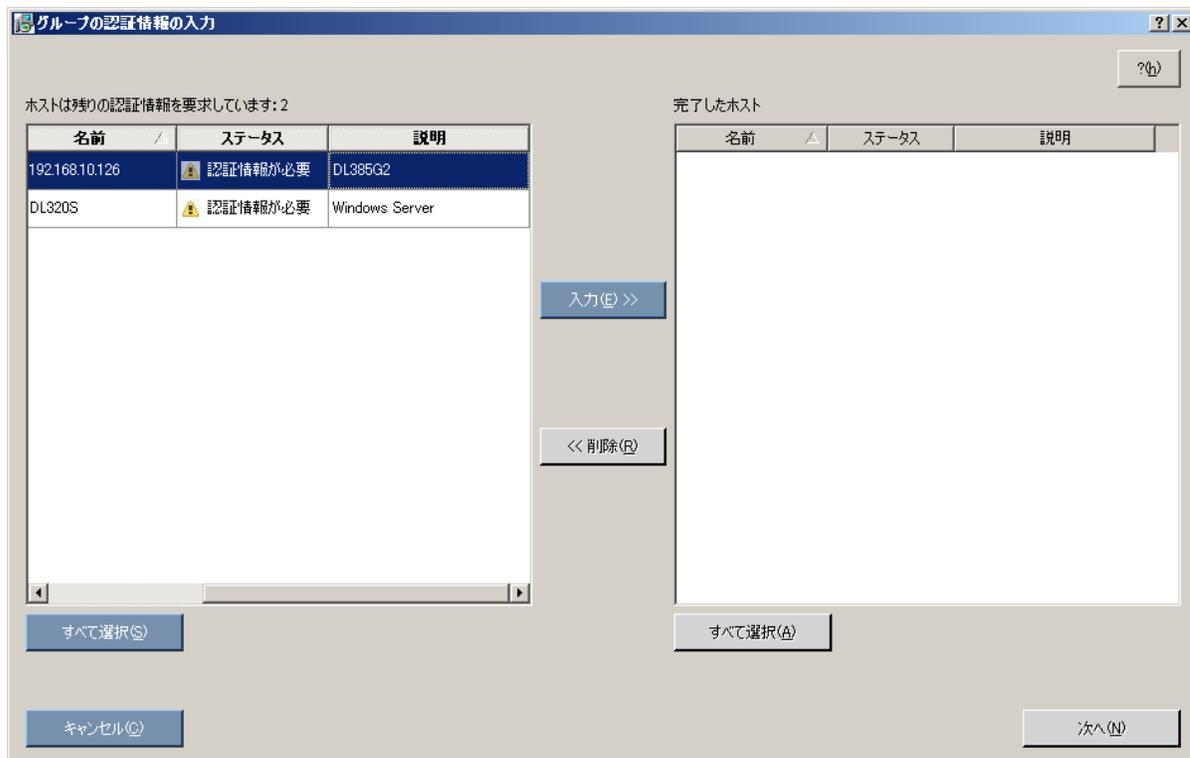
ホストの認証情報を入力するには、以下のいずれかの手順に従ってください。

- **[ユーザ名およびパスワードの入力]**を選択して、ユーザ名とパスワードを入力します。
- **[現在の証明情報の使用]**を選択して、現在ログインしているユーザの認証情報を使用します。

リモート ホスト上でアクティブなアップデート プロセスが検出される場合に備えて、**[ホストをスキップ]**または**[アップデートを再開]**を選択できます。ホストのスキップを選択すると、以降のアップデート プロセスでホストが無視されます。また、アップデートの再開を選択すると既存または進行中のインストールが終了します。

続行するには、**[OK]**をクリックします。

グループまたは複数のホストを選択すると、[グループの認証情報の入力]画面が表示されます。



画面では、まだ認証情報が必要な残りのホストと、認証情報の入力が完了しているホストが別々に表示されます。各ウィンドウは、次の欄に分かれています。

- [名前] - ホストの名前が表示されます。
- [ステータス] - ホストの認証情報のステータスを表示します。

アイコン	テキスト	説明
✓	入力済み	ホストの認証情報が入力されています。
⚠	認証情報の必要	ホストの認証情報が入力されていません。
⚠	認証情報の失敗	ホストについて入力された情報で認証に失敗しました。
❌	ホストにアクセスできません	入力されている認証情報を使用してホストにアクセスできないか、またはネットワーク上でホストを検出できません。
🚫	HPSUMセッションが存在しているためホストをスキップしました	既存のHP Smart Update Managerセッションのためにホストがスキップされました。適切なCLIスイッチが使用されているかまたは[ホストの証明情報の入力]画面で[アップデートを再開]が選択されていれば、スキップしたホストにアクセスできます。

- [説明] - ホストについてユーザが定義した説明が表示されます。

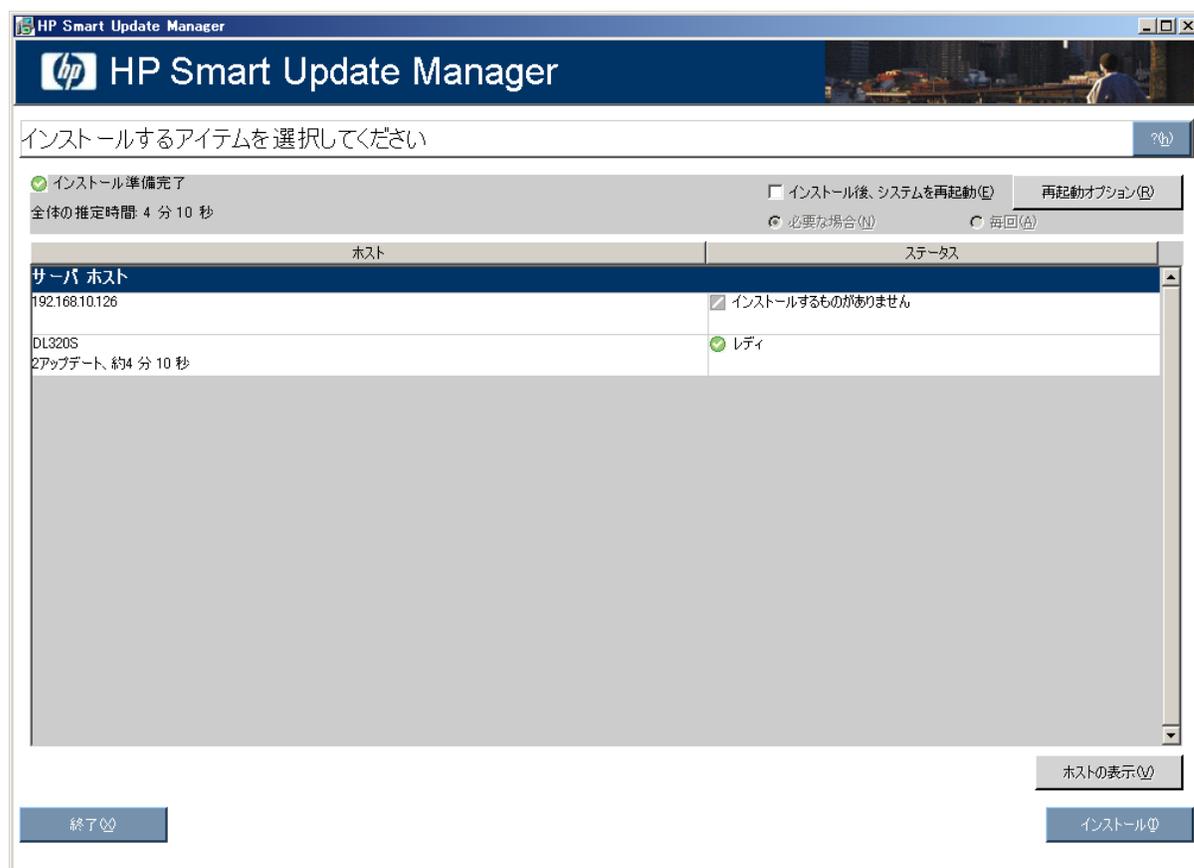
ホストの認証情報を入力するには、以下の手順に従ってください。

1. 左ウィンドウで、[ホストは残りの認証情報を要求しています]リストからホストを選択します。すべての認証情報が同じ場合、[すべて選択]をクリックしてリストのすべてのホストを選択してください。
2. 必要な認証情報を入力し、[入力]ボタンをクリックして、選択したホストを[完了したホスト]ウィンドウに移動します。
3. 続行するには、[次へ]をクリックします。

注: TPMが検出され有効になっている場合、[検出プロセス]画面の後で、HP Smart Update Managerの警告メッセージがポップアップ表示されます。このメッセージを読み、次に進む方法を決定する必要があります。詳しくは、「Trusted Platform Module」(8ページ)を参照してください。

複数のホストにインストールするコンポーネントの選択

[インストールするアイテムを選択してください]画面には、サーバホストとそのステータス情報が表示されます。



[インストールするアイテムを選択してください]画面には、以下のボタンが表示されます。

- [ホストの表示] - ホストを選択した後、そのホストの追加情報を表示できます。
- [インストール] - 選択されたすべてのコンポーネントをすべてのリモートホストにインストールします。失敗した依存状態が発生している場合、インストールボタンはグレー表示されます。
- [終了] - HP Smart Update Managerを終了します。

[インストールするアイテムを選択してください]画面の[サーバホスト]ウィンドウには、インストール対象として選択できるサーバホストの概要情報が表示され、個々のホストの詳細を表示させることができます。

[サーバホスト]ウィンドウは、次の欄に分かれています。

- [ホスト] - システムの名前、使用可能な更新の数、および予想されるインストール時間を表示します。
- [ステータス] - ホストのステータスを表示します。

アイコン	テキスト	説明
	レディ	ホストのインストール準備ができました。

アイコン	テキスト	説明
☑	インストールするものはありません	ホストは、すでに最新の状態です。
☑	HPSUMセッションが存在しているためホストをスキップしました	既存のHP Smart Update Managerセッションのためにホストがスキップされました。
!	対応が必要です	ホストのインストール準備ができていません。詳細については、[ホストの表示]をクリックしてください。
✖	検出失敗	ホストのインストール準備ができていません。インストールされているハードウェア、ソフトウェア、およびファームウェアの検出が失敗しました。

注： [ステータス]欄に、更新版がインストールされた後の再起動についてのデフォルト動作が表示されることもあります。

選択した単一ホストをより詳しく表示するには、[インストールするアイテムを選択してください]画面で[ホストの表示]をクリックします。単一ホストの選択画面が表示されます。

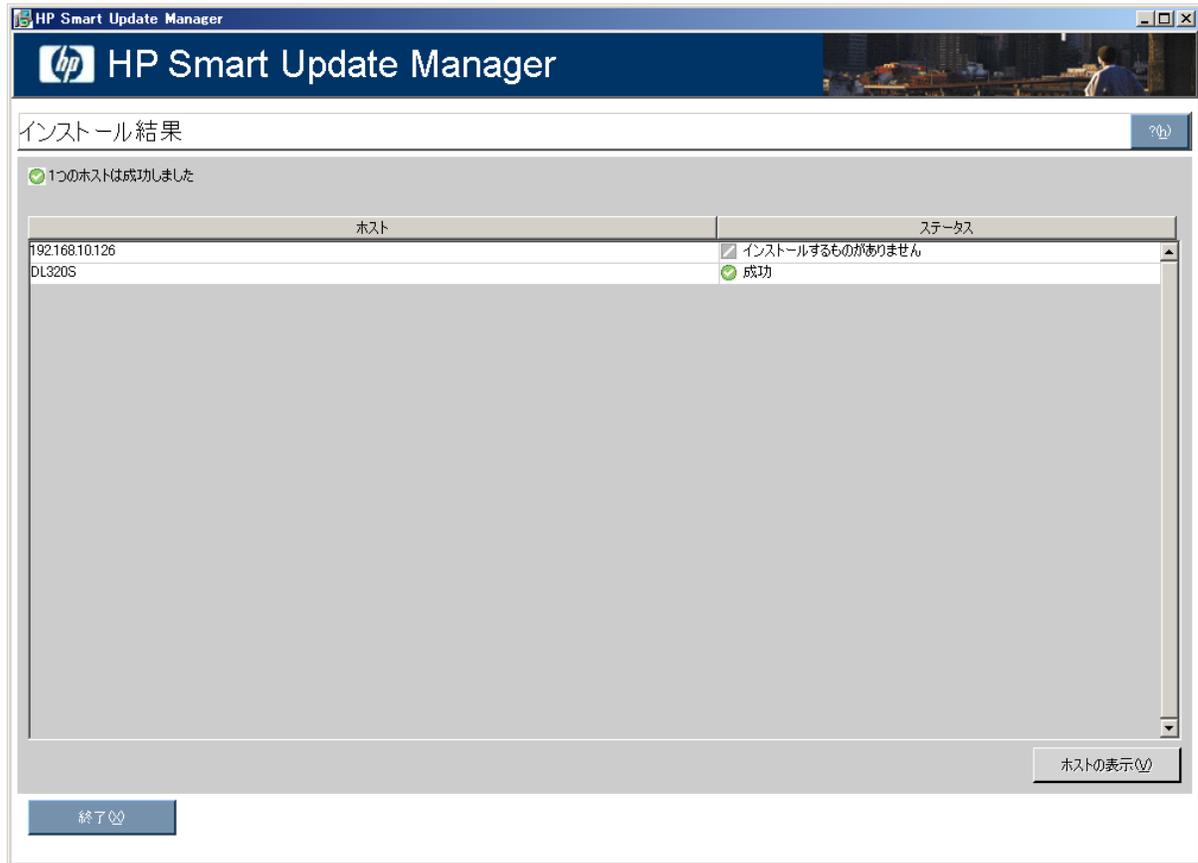


選択した単一ホストを設定するには、「インストールするコンポーネントの選択」(17ページ)に示されている手順に進みます。

更新対象のすべてのホストについて単一ホストの設定を行ったあと、インストール手順に移るには、[インストールするアイテムを選択してください]画面で[インストール]をクリックします。

複数ホストのインストール結果の表示

インストールが完了すると、[インストール結果]画面が表示されます。



[インストール結果]画面は、次の欄に分かれています。

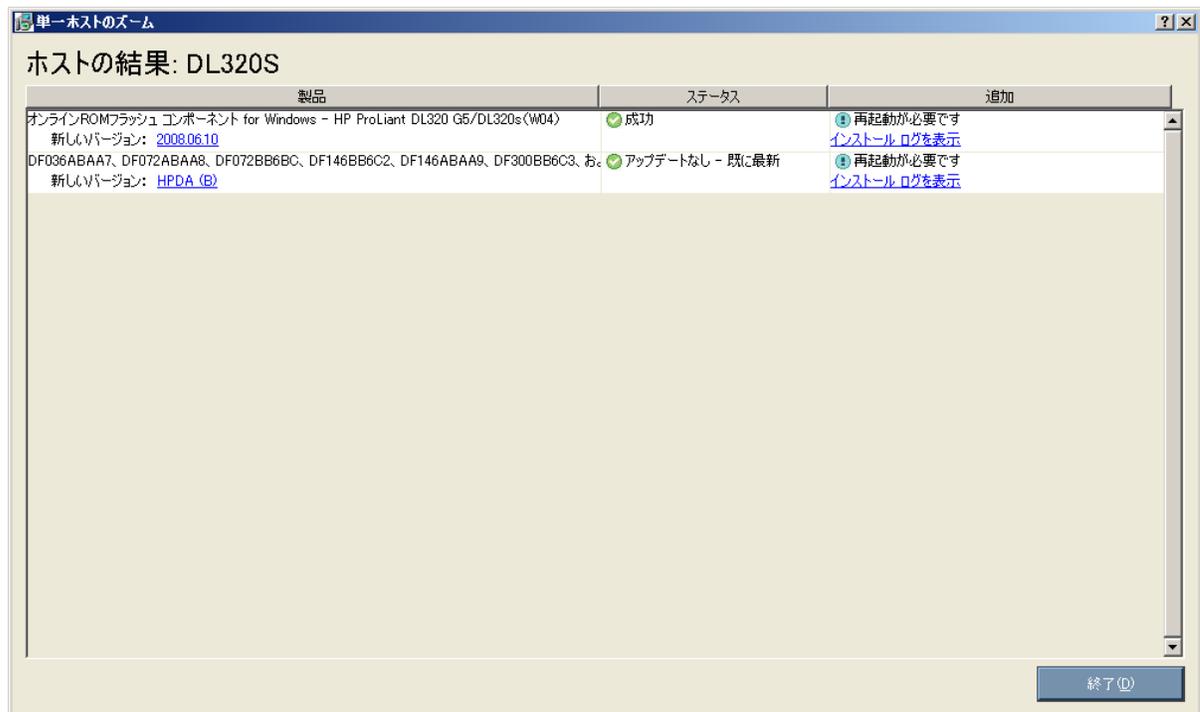
- [ホスト] - ホストのIPアドレスまたはDNS名を示します。
- [ステータス] - リモート ホスト上のコンポーネントの全体的なインストール ステータスを表示します。

アイコン	テキスト	説明
	成功	ホストは正常に更新されました。
	インストールするものがありません	ホストは、すでに最新の状態です。
	インストールはユーザによりキャンセルされました	インストールはキャンセルされました。プロセスを継続できません。
	インストール失敗	1つまたは複数のコンポーネントのインストールに失敗しました。

[インストール結果]画面には、次のボタンもあります。

- [ホストの表示] - 選択されたホストのインストール結果を表示できます。
- [終了] - HP Smart Update Managerを終了します。

単一ホストのインストール結果を表示するには、ホストをダブルクリックするか、ホストを選択して[ホストの表示]をクリックします。



「インストール結果の表示」 (25ページ) に示されている手順に進みます。

スクリプト インストール

コマンドライン インタフェース

HP Smart Update Managerのコマンドライン インタフェースを使用すると、スクリプト カスタム インストールが可能です。

コマンドライン構文

HP Smart Update Managerの一般的なコマンドライン構文は、以下のとおりです。

```
hpsum [/h[elp]] [/?][/f[orce]] [/f[orce]:bundle] [/f[orce]:rom] [/f[orce]:software]
[/f[orce]:all ] [/g (/downgrade)] [/e (/rewrite)] [/m[utual]] [/r[eboot]]
[/reboot_message "reboot message"] [/reboot_delay timeout_in_seconds]
[/reboot_always] [/s[ilent]] [/c[omponent] <component_to_install>] [/group
"group_name"]
[/b[undle] <bundle_to_install>] [/allow_update_to_bundle]
[/allow_non_bundle_components] [/use_latest] [/use_location "file_share"]
[/use_snmp] [/use_wmi] [/romonly] [/softwareonly] [/dryrun] [/continue_on_error
<error>] [/override_existing_connection] [/express_install] [/user <username> or
/username <username>] [/passwd <password>] [/current_credential] [/target
"netAddress"] [/logdir "path"] [<component1_to_install>
<component2_to_install> ...][<bundle1_to_install> <bundle2_to_install> ...]
```

Onboard AdministratorでHP Smart Update Managerを使用する場合は、ログインのためにユーザIDとパスワードが要求されます。ユーザIDは、オペレータ レベルやユーザ レベルではなく、管理者レベルのIDでなければなりません。

注 : 角カッコで囲まれた引数および情報はすべてオプションです。

Windows®オペレーティング システムでは、各引数の前にスラッシュ (/) を付けます。Linuxオペレーティング システムでは、各引数の前にハイフン (-) を付けます。

コマンドラインでコマンドライン引数を指定しない場合、コンポーネントGUIが表示されます。

コマンドライン引数

HP Smart Update Managerは、次のコマンドライン引数を認識します。[インストールするアイテムを選択してください]画面のGUIには、これらの引数があらかじめ入力されています。ユーザがホストまたはグループを指定する場合は、[インストールするアイテムを選択してください]画面は表示されません。

/romonly、/softwareonlyなど、一部の引数は併用できません。

コマンドライン引数	説明
/h[elp]または/?	この引数では、コマンドラインのヘルプ情報が表示されます。
/f[orce]	この引数により、現在インストールされているコンポーネントを上書きまたはダウングレードできます。この引数の役割は、/f:softwareと同じです。
/f[orce]:bundle	この引数を使用すると、選択されているバンドルに含まれ、現在インストールされているコンポーネントを上書きまたはダウングレードできます。
/f[orce]:rom	この引数により、選択されているファームウェア コンポーネントのうち現在インストールされているものを上書きまたはダウングレードできます (ファームウェアにのみ適用)。

コマンドライン引数	説明
/f[orce]:software	この引数により、選択されているソフトウェア コンポーネントのうち現在インストールされているものを上書きまたはダウングレードできます。
/f[orce]:all	この引数により、選択されているソフトウェア コンポーネント、ファームウェア コンポーネント、およびバンドルのうち現在インストールされているものを上書きまたはダウングレードできます。
/gまたは/downgrade	この引数を指定すると、ハードディスク ドライブ、アレイ コントローラなど、マルチターゲット デバイスのファームウェアを以前のバージョンにダウングレードできます（ファームウェアにのみ適用）。
/eまたは/rewrite	この引数を指定すると、ハードディスク ドライブ、アレイ コントローラなど、マルチターゲット デバイスだけを対象にバージョンを変更せずにファームウェアを再書き込みできます（ファームウェアにのみ適用）。
/m[utual]	この引数は、フラッシュ対象のデバイスが共有ストレージ環境にある場合に、ファームウェア フラッシュ エンジンにファームウェアのフラッシュを通知します。フラッシュ対象のデバイスが共有ストレージ環境にある場合、/mオプションを渡さないと、コンポーネントのインストールは失敗します（ファームウェアにのみ適用）。
/r[eboot]	この引数では、次の条件を満たす場合、サーバ（リモート インストールではホストサーバ）が再起動します。 <ul style="list-style-type: none"> • /rebootオプションが選択されているか、コマンドライン引数として指定されている。 • インストール用に選択されたすべてのコンポーネントが正常にインストールされている。 • インストールされたコンポーネントのうち少なくとも1つで、インストールを完了するために再起動が必要。
/reboot_message "reboot message"	この引数では、再起動するサーバに接続されているリモート コンソールに、特定の再起動メッセージを表示します。この引数は/rebootオプションと組み合わせて使用する必要があります。/rebootと組み合わせて使用しない場合は無視されます。
/reboot_delay timeout_in_seconds	この引数は、timeout_in_seconds変数で指定された時間だけ、サーバの再起動を遅らせます。この引数は/rebootオプションと組み合わせて使用する必要があります。/rebootと組み合わせて使用しない場合は無視されます。指定できる値は15~3600です。デフォルトのタイムアウト値はMicrosoft® Windows®で15秒、Linuxで60秒です。Linuxでは、再起動遅延の時間は秒単位から分単位に変換され、1分未満（59秒以下）の値は切り上げられます。
/reboot_always	この引数では、次の条件を満たす場合、サーバを再起動します。 <ul style="list-style-type: none"> • /reboot_alwaysオプションが選択されているか、コマンドライン引数として指定されている。 • インストール用に選択されたすべてのコンポーネントが正常にインストールされている。
/s[ilent]	この引数を指定すると、GUIやコンソールの出力を伴わないサイレントインストールが行われます。データはすべてログ ファイルに書き込まれます。生成されるプロンプトではすべてデフォルト オプションが使用され、ユーザの入力なしでインストールが続行されます。コンポーネントでインストール前に設定情報などの入力が必要な場合は、そのコンポーネントのインストールは失敗しログ ファイルにエラー メッセージが書き込まれます。/s[ilent]引数を使用する場合、失敗した依存状態はユーザに報告されません。失敗した依存状態をチェックするには、/s[ilent]引数を削除して、コマンドラインを再発行します。そうすると、HP Smart Update Manager GUIが表示されます。

コマンドライン引数	説明
<code>/c[omponent]</code> <code><component to install></code> または <code><component1_to_install></code> <code><component2_to_install></code>	この引数は、インストールするコンポーネントを指定します。インストールするコンポーネントは、 <code>/c[omponent]</code> 引数を付けて指定することも付けずに指定することもできます。 <code>/c[omponent]</code> 引数を付ける場合、この引数で指定できるコンポーネントは1つだけです。ただし、複数の <code>/c</code> 引数、つまりコンポーネントを1つのコマンドラインで指定できます。 <code>/c[omponent]</code> 引数を使わない場合、複数のコンポーネントを同時に指定できますが、各コンポーネントを空白で区切る必要があります。コマンドライン上のすべての引数のあとで指定しなければなりません。コンポーネントの依存関係により別の順序でインストールする必要がある場合を除き、インストールは指定された順序で行われます。依存関係がある場合は、できるだけ多くのコンポーネントのインストールが成功するように、ユーティリティによりその依存関係に基づいてインストール順序が変更されます。複数のコンポーネントとバンドルを同じコマンドラインで指定できます。1つのコマンドラインにコンポーネントとバンドルが混在する場合、フィルタスイッチによりインストールされるコンポーネントとバンドルが制御されます。
<code>/group "group_name"</code>	この引数は、HP Smart Update Manager GUIで定義済みのグループ名を指定します。
<code>/b[undle]</code> <code><bundlename></code> または <code><bundle1_to_install></code> <code><bundle2_to_install></code>	この引数は、インストールするバンドルを指定します。インストールするバンドルは、 <code>/b[undle]</code> 引数を付けて指定することも付けずに指定することもできます。 <code>/b[undle]</code> 引数を付ける場合、この引数で指定できるバンドルは1つだけです。ただし、複数の <code>/b</code> 引数、つまりバンドルを1つのコマンドラインで指定できます。 <code>/b[undle]</code> 引数を使わない場合、複数のバンドルを同時に指定できますが、バンドルを空白で区切る必要があります。コマンドライン上のすべての引数のあとで指定しなければなりません。複数のコンポーネントとバンドルを同じコマンドラインで指定できます。1つのコマンドラインにコンポーネントとバンドルが混在する場合、フィルタスイッチによりインストールされるコンポーネントとバンドルが制御されます。
<code>/allow_update_to_bundle</code>	この引数はフィルタスイッチであり、この引数を使うとPSPまたはファームウェアバンドルで定義されるコンポーネントの新しいバージョンをインストールできます。この引数により、定義されたコンポーネントが同じコンポーネントの古いバージョン（バンドルに付属している可能性があります）と置き換えられます。
<code>/allow_non_bundle_components</code>	この引数はフィルタスイッチであり、この引数を使うとバンドルに含まれていないがバンドル内のコンポーネントとともにディレクトリに存在するコンポーネントをインストールできます。
<code>/use_latest</code>	この引数は、バンドルとともに使用するフィルタスイッチです。この引数により、コマンドラインに複数のバージョンのバンドルが指定されている場合に、最新のバージョンが使用されます。コマンドラインでバンドルが指定されておらずディレクトリ内に複数のバンドルがある場合、 <code>/use_latest</code> 数を指定すると、HP Smart Update Managerは最新バージョンのバンドルを使用してインストールを行います。
<code>/use_location</code> <code>"file_share"</code>	この引数は、HP Smart Update Managerで使用するPSPおよびコンポーネントを含むディレクトリまたはファイル共有を指定します。この引数を指定しない場合、デフォルトで <code>hpsum.exe</code> またはHP Smart Update Managerを含むディレクトリが使用されます。ログインアカウントが、この位置にアクセスできなければなりません。ファイル共有にアクセスを試みる場合、 <code>/user</code> および <code>/passwd</code> 引数は機能しません。これらの引数は、ターゲットシステムに接続する際にのみ使用できます。
<code>/use_snmp</code>	この引数は、SNMPプロトコルを使用するコンポーネントをインストール対象として選択できることを指定します。これらのコンポーネントは、デフォルトで選択できます。 <code>/use_snmp</code> 引数が使用され、 <code>/use_wmi</code> 引数が使用されていない場合、WMIコンポーネントはオプションになります。

コマンドライン引数	説明
/use_wmi	この引数は、WMIプロトコルを使用するコンポーネントをインストール対象として選択できることを指定します。これらのコンポーネントはデフォルトではオプションで、引数を指定しない場合はインストールされません。/use_wmi引数が使用され、/use_snmp引数が使用されていない場合、SNMPコンポーネントはオプションになります。
/romonly	この引数はフィルタ スイッチであり、このスイッチを使うとインストールに必要なファームウェア コンポーネントだけを表示できます。このフィルタ スイッチを使用する場合、HP Smart Update Managerをいったん終了して再起動しフィルタが適用されていない状態に戻す必要があります。/romonly引数を/softwareonly引数と組み合わせて使用しないでください。
/softwareonly	この引数はフィルタ スイッチであり、このスイッチを使うとインストールに必要なソフトウェア コンポーネントだけを表示できます。このフィルタ スイッチを使用する場合、HP Smart Update Managerをいったん終了して再起動しフィルタが適用されていない状態に戻す必要があります。/softwareonly引数を/romonly引数と組み合わせて使用しないでください。
/dryrun	この引数は、テスト用にインストールをシミュレートします。この引数を指定すると何もインストールされません。
/continue_on_error <error>	この引数を指定すると、インストールがエラーを無視して続行されます。有効な値は、<error>=ServerNotFoundおよび<error>=BadPasswordです。ServerNotFoundオプションは、ファームウェアまたはソフトウェアを複数のリモート ホストに同時にインストールするとき、動作していないリモート ホストや利用できないリモート ホストをバイパスするために使用できます。
/override_existing_connection	この引数は、リモート ターゲットで既存のHP Smart Update Managerセッションが進行しているときの動作を定義します。この引数は、進行中のセッションを無効にして、リモート ホストのインストール フレームワークを初期化しなおします。
/express_install	この引数は、高速インストールを開始します（ローカル ホストのみが対象）。HP Smart Update Managerは、ユーザに操作を求めることなく、検出、インストール、または終了操作を行います。ユーザがHP Smart Update Managerをキャンセルまたは終了することはできません。
/user <username>または /username <username>	この引数により、自身のユーザIDでHP BladeSystem c-Class Onboard Administratorにログインできます。
/passwd <password>	この引数を指定すると、/userパラメータで指定したユーザIDに対応するパスワードを使用できます。このパスワードは、リモート ホストおよびHP BladeSystem c-Class Onboard Administratorへのログインに使用されます。
/current_credential	この引数を追加すると、ターゲットにアクセスするための認証情報としてローカル ホストの認証情報を使用することができ、ターゲットごとに明示的にユーザ名とパスワードを入力する必要がなくなります。ただし、アクセス対象のターゲットで現在の認証情報が有効であることが前提です（Windows®オペレーティング システムにのみ適用）。
/target "netAddress"	この引数では、HP BladeSystem c-Class Onboard Administratorまたはリモート ホストのIPアドレスまたはDNS名を指定します。エンクロージャ内にOnboard Administratorが2つある場合、この引数で、アクティブなOnboard Administratorのアドレスや名前を指定する必要があります。IPアドレスを指定する場合は、IPv4またはIPv6形式を使用できます。
/logdir "path"	この引数を追加すると、HP Smart Update ManagerまたはHP BladeSystem c-Class Onboard Administratorフラッシュ ユーティリティからの出力をデフォルト位置とは異なるディレクトリにリダイレクトできます。Windows®コンポーネントの場合、デフォルト位置は%SYSTEMDRIVE%\CPQSYSTEM\hp\log<netAddress>で、リダイレクト先は<path>\hp\log\<netAddress>です。Linuxコンポーネントの場合、デフォルト位置は/var/hp/log/<netAddress>でリダイレクト先は<path>/hp/log/<netAddress>です。

コンポーネントの設定 (Windowsコンポーネントのみ)

HP Smart Update Manager GUIを使用しないでコンポーネントを設定する場合は、`hpsum_config <設定対象のコンポーネント>` コマンドを発行します。このコマンドにより、HP Smart Update Manager GUIで表示されるものと同じ設定画面が表示されます。このコマンドは、CDなどの読み取り専用メディアから実行します。そうしないと、コンポーネントを設定できません。コンポーネントの設定は、1回だけ行います (繰り返す必要はありません)。設定はコンポーネント内に保存され、HP Smart Update Manager GUIまたはコマンドラインを介してインストールされる際にすべてのターゲット サーバに伝達されます。設定を変更するには、コンポーネントに対してもう一度 `hpsum_config` を実行します。これにより、新しい設定がすべて書き込まれます。コンポーネントの設定が必要な場合は、`hpsum_config` コマンドがコンソールに戻ります。

Server Coreオプションを使用してインストールしたWindows Server® 2008のすべてエディションにインストールするコンポーネントを設定するには、サポートされているWindows® オペレーティングシステムを搭載するシステム上で実行されているHP Smart Update Managerを使用して、リモート ホストとしてシステムにアクセスしコンポーネントを設定する必要があります。インストールは設定の完了後に行います。

コマンドラインの例

次のコマンドラインパラメータの例は、以下の環境内で実行できます。

- Windows® PSP :
 - ProLiant Support Pack for Microsoft® Windows Server™ 2003 v7.90 (BP000323.xml)
 - ProLiant Support Pack for Microsoft® Windows Server™ 2003 v7.80 (BP000315.xml)
- ファームウェア :
 - システムROM
 - Smartアレイ コントローラ
 - ハードディスク ドライブ
 - iLO
- ソフトウェア - 次のソフトウェアの新しいバージョン :
 - HP Insight Diagnostics Online Edition for Windows Server™ 2003 (cp008097.exe)
 - HP System Management Homepage for Windows® (cp008257.exe)
- HP Smart Update Manager
 - 定義済みグループ : Management Servers—3台のサーバ (Management Server1、Management Server2、Management Server3) で構成

例1 :

このコマンドライン入力は、最新のPSPおよびファームウェア コンポーネントをインストールします。

```
hpsum /use_latest /allow_non_bundle_components /silent
```

結果 : HP Smart Update Managerがインストールする必要があると判断した、7.90 PSPのすべてのソフトウェア コンポーネントとファームウェア コンポーネントがインストールされました。

例2 :

次のコマンドライン入力のどちらでも、以前のバージョンのPSPのみをインストール (すべてのコンポーネントを強制インストール) できます。

- `hpsum /f:bundle /softwareonly BP000315.xml`

- `hpsum /b BP000315.xml /f:bundle /softwareonly`

結果：HP Smart Update Managerがインストールする必要があると判断した、7.80 PSPのすべてのソフトウェア コンポーネントがインストールされました。ファームウェアはインストールされていません。

例3：

このコマンド ライン入力は、ファームウェアをインストールします。

```
hpsum /romonly
```

結果：HP Smart Update Managerがインストールする必要があると判断した、すべてのファームウェア コンポーネントがインストールされました。ソフトウェアはインストールされていません。

例4：

次のコマンド ライン入力のどちらでも、2つのソフトウェア コンポーネントをインストールできます。

- `hpsum /f:software cp008097.exe cp008257.exe`
- `hpsum /c cp008097.exe /c cp008257.exe /f:software`

結果：2つのコンポーネントがインストールされました。ファームウェアと他のソフトウェアはインストールされていません。

例5：

次のコマンド ライン入力のどちらでも、最新のPSP、バンドル内の新しいほうのバージョンのコンポーネント、およびファームウェアを3台のリモートホストにインストールできます（すべてのコンポーネントを強制インストール）。

- `hpsum /group "Management Servers" /current_credential /use_latest /allow_update_to_bundle /allow_non_bundle_components /force:all /override_existing_connection /continue_on_error ServerNotFound /silent /logdir "Management_Server_Files"`
- `hpsum /target "Management Server1" /target "Management Server2" /target "Management Server3" /user administrator /passwd letmein /use_latest /allow_update_to_bundle /allow_non_bundle_components /force:all /override_existing_connection /continue_on_error ServerNotFound /silent /logdir "Management_Server_Files"`

結果：すべてのファームウェア コンポーネント、7.90 PSPのソフトウェア コンポーネント、cp008097.exe、およびcp008257.exeが、Management Server1、Management Server2、およびManagement Server3にインストールされました。

HP Smart Update Managerのリターンコード

HP Smart Update ManagerはLinuxとWindows®コンポーネントのリターンコードを、新しく拡張されたリターンコード マッピングに統合しました。これらのリターンコードは、コンポーネント インストールのステータスを決定します。また、スクリプトのリターンコードを使用して、スクリプトの実行を制御したり、必要な分岐を決定したりできます。

Linuxでは、マイナスのリターンコードがレポートされます。これらのリターンコードは、256からマイナスの値を引くことで決定されます。

インストール ログファイルの位置を確認するには、「インストール結果の表示」（25ページ）を参照してください。

リターンコード	値	Linux	Windows	テキスト
SUCCESS_NO_REBOOT	0	0	0	インストールに成功しました。
SUCCESS_REBOOT	1	1	1	インストールに成功しましたが、再起動が必要です。

リターンコード	値	Linux	Windows	テキスト
SUCCESS_NOT_REQUIRED	3	3	3	このコンポーネントは最新であるか、または不要です。
FAILURE_GENERAL	-1	255	255	一般障害が発生しました。詳しくはエラーログを参照してください。
FAILURE_BAD_PARAM	-2	254	254	不正な入力パラメータが検出されました。
FAILURE_COMPONENT_FAILED	-3	253	253	コンポーネントのインストールに失敗しました。

Windows Smartコンポーネントのリターンコード

エラーレベル	意味
0	Smartコンポーネントのインストールに失敗しました。詳しくは、ログファイルを参照してください。
1	Smartコンポーネントのインストールに成功しました。
2	Smartコンポーネントのインストールは成功しましたが、システムを再起動する必要があります。
3	必要なハードウェアが存在しないか、ソフトウェアが最新のものか、インストールするものがないためインストールは試みられませんでした。

Linux Smartコンポーネントのリターンコード

ターゲットサーバが1台の場合

エラーレベル	意味
0	Smartコンポーネントのインストールに成功しました。
1	Smartコンポーネントのインストールは成功しましたが、システムを再起動する必要があります。
2	必要なハードウェアが存在しないか、ソフトウェアが最新のものか、インストールするものがないためインストールは試みられませんでした。
3	Smartコンポーネントのインストールに失敗しました。詳しくは、ログファイルを参照してください。

ターゲットサーバが複数の場合

エラーレベル	意味
0	提供できるコンポーネントのインストールは成功しました。再起動は不要です。
1	提供できるコンポーネントのインストールは成功しました。インストールしたコンポーネントを有効にするために、再起動が必要です。
2	インストール予定のバージョンと既存のバージョンが一致するため、インストールは試みられませんでした。
3	次のいずれかの理由により、インストールは試みられませんでした。 <ul style="list-style-type: none"> インストール予定のバージョンが、インストールされているバージョンより古い サポートされているハードウェアが存在しないか、有効になっていないか、またはインストールを試みることができない状態にある Smartコンポーネントが環境をサポートしない Smartコンポーネントでできないことがない
4	このリターンコードは、Onboard Administratorを始めとするネットワークベースの装置などのリモートターゲットにコンポーネントをインストールする場合に表示され、ターゲットが見つからないことを示します。

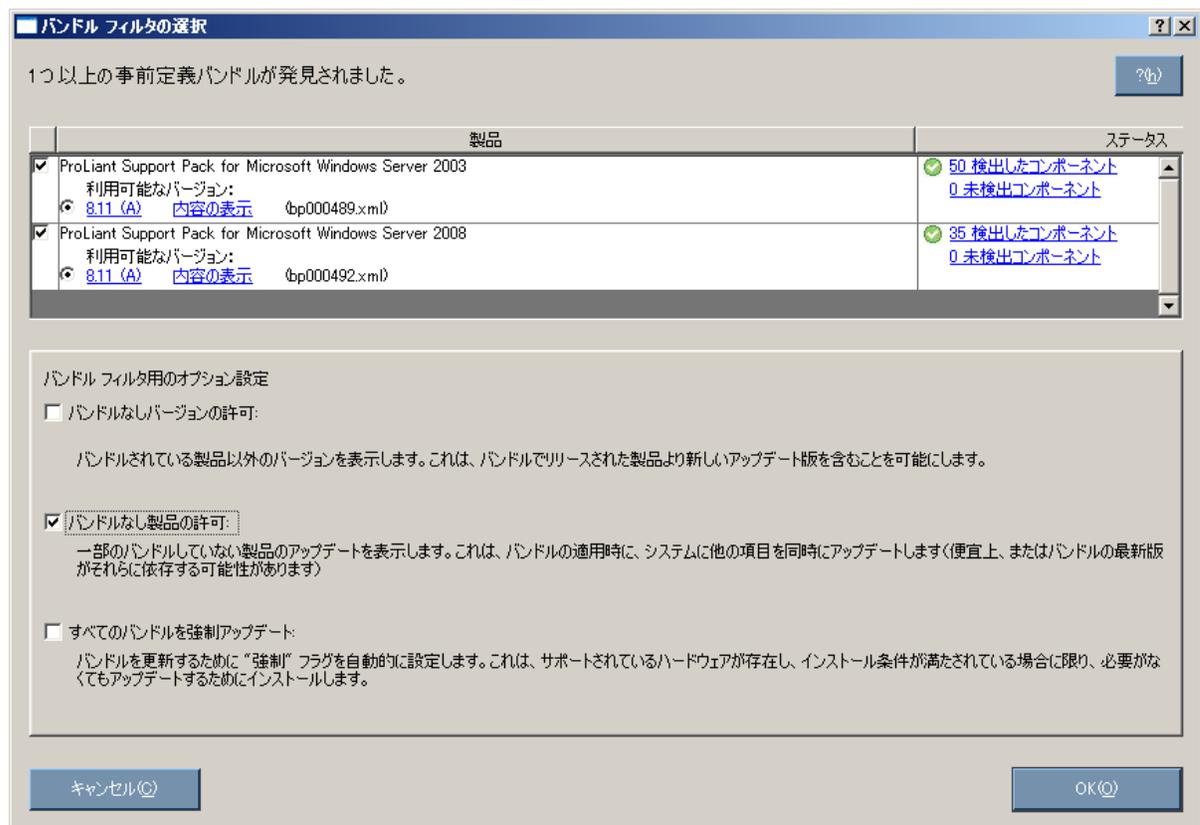
エラー レベル	意味
5	インストールがユーザにより取り消されました。何もインストールできていません。
6	依存関係が満たされていないかまたはインストール ツールに問題があるため、インストーラを実行できません。
7	インストール ツールに問題はありませんが、実際のインストール操作が失敗しました。

高度なトピック

ファームウェアとソフトウェアの同時インストール

HP Smart Update Managerユーティリティでは、ファームウェア コンポーネントとソフトウェア コンポーネントを同時にインストールできます。Windows® PSPおよびサーバブレードバンドルからのファームウェア コンポーネントとソフトウェア コンポーネントの同時インストールをサポートするのはWindows®のオンラインインストールだけです。同時にインストールするには、最新のMicrosoft® Windows® PSP、バンドル、およびファームウェア コンポーネントを同じディレクトリに配置する必要があります。また、cp*.exeやcp*.scexeファイルをレポジトリに追加する必要があります。

ファームウェア コンポーネントとWindows® PSPのソフトウェア コンポーネント、ならびにサーバブレードバンドルを同時にインストールするには、HP Smart Update Managerを実行します。[バンドルフィルタの選択]画面で、バンドルを選択し、[バンドルなし製品の許可]オプションを選びます。



[OK]をクリックして、インストール プロセスに進みます。[インストールするアイテムを選択してください] (17 ページの「インストールするコンポーネントの選択」を参照) 画面が表示され、該当するファームウェア コンポーネントとソフトウェア コンポーネントが示されます。

PSPについて詳しくは、『HP ProLiant Support Packユーザ ガイド』を参照してください。

サーバの仮想化の検出とサポート

Firmware Maintenance CDIは、Windows®またはLinuxホストで動作するサーバの仮想化はサポートしません。このため、ゲストまたは子仮想マシンからのファームウェアのインストールは許可されません。このサーバの仮想化は、VMwareホスト上や、使用されるホスト ハイパーバイザとは関係なくゲスト オペレーティング システム上では機能しません。Firmware Maintenance CDからゲスト オペレーティング システム環境を起動することはできません。

HP Smart Update Managerとともに使用する場合のIPv6ネットワークの構成

HP Smart Update Managerバージョン3.2.0からは、IPv6ベースのネットワークでリモート ターゲットにインストール (Windows®およびLinuxターゲット サーバが対象) を行えます。IPv6ネットワークでのHP Smart Update Managerの使用は、IT管理者にとって困難な課題です。

Windows® ベースのサーバがリモート ターゲット サーバと通信するために、HP Smart Update Managerは、既存の認証情報またはユーザが入力するユーザ名とパスワードを使用して、admin\$共有に接続します。この共有は、Windows Server®が自動で設定する共有です。HP Smart Update Managerは、admin\$共有に接続すると、インストールの実行中に使用するサイズの小さいサービスをターゲット サーバにコピーします。このサービスが開始されると、HP Smart Update Managerはこのサービスを使用してローカル サーバとリモート ターゲット サーバとの通信を行います。このプロセスの実行中、HP Smart Update ManagerはWindows®のファイアウォールでポートを開きます。これにより、HP Smart Update Managerは、SSL経由でSOAPコールを使用してローカル システムとリモート システムとの間でデータをやりとりできるようになります。これらのポートは、「HP Smart Update Managerで許可されるポート」 (59ページの「[HP Smart Update Managerでのポートの有効化](#)」を参照) で定義します。インストールが完了するかまたは取り消されると、HP Smart Update Managerはリモート サービスを停止し、ターゲット サーバからサービスを削除し、Windows®ファイアウォール上のポートを閉じてから、ターゲット サーバのadmin\$共有への共有を解除します。

Linuxベースのサーバがリモート ターゲット サーバと通信するために、HP Smart Update Managerは、ユーザが入力するユーザ名とパスワードを使用して起動し、ターゲット サーバへのSSH接続を確立します。HP Smart Update Managerは接続後、インストールの実行中だけに使用するサイズの小さいサービスをターゲット サーバにコピーします。このサービスが開始されると、HP Smart Update Managerはこのサービスを使用してローカル サーバとリモート ターゲット サーバとの通信を行います。このプロセスの実行中、HP Smart Update Managerはiptablesファイアウォールでポートを開きます。これにより、HP Smart Update Managerは、SSL経由でSOAPコールを使用してローカル システムとリモート システムとの間でデータをやりとりできるようになります。これらのポートは、「HP Smart Update Managerで許可されるポート」 (59ページの「[HP Smart Update Managerでのポートの有効化](#)」を参照) で定義します。インストールが完了するかまたは取り消されると、HP Smart Update Managerはリモート サービスを停止し、ターゲット サーバからサービスを削除し、iptablesファイアウォールのポートを閉じてから、ターゲット サーバへのSSH接続を終了します。

Windows Server 2003でのIPv6の構成

IPv6ネットワーク内でのWindows Server® 2003オペレーティング システムのセットアップについては、Microsoft社のWeb サイト <http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?FamilyID=fd7e1354-3a3b-43fd-955f-11edd39551d7&displaylang=en>にあるオンラインのMicrosoft® Technetアールクル『Step-by-Step Guide for Setting Up IPv6 in a Test Lab』 (英語) を参照してください。

HP Smart Update Managerを使用してリモートのWindows Server® 2003サーバにソフトウェアやファームウェアの更新をインストールする前に、レジストリ エントリを追加してIPv6ネットワーク経由でのファイル共有接続を有効にする必要があります。レジストリ エントリを作成するには、以下の手順に従ってください。

1. レジストリ エディタ (Regedt32.exe) を起動します。

2. レジストリで次のキーを見つけてクリックします。

HKEY_LOCAL_MACHINE\System\CurrentControlSet\Services\LanmanServer\Parameters

3. [編集]メニューで、**[新規] - [DWORD値]**をクリックします。

4. 次のレジストリ値を追加します。

値の名前 : DisableStrictNameChecking

データの種類 : REG_DWORD

表記 : 10進

値のデータ : 1

5. レジストリ エディタを終了します。

上記の手順について詳しくは、Microsoft®社のWebサイト<http://www.microsoft.com>から、Microsoft® Knowledge Base Item 281308（英語）を参照してください。

IPv6アドレスは、コマンド ライン引数またはHP Smart Update Managerのユーザ インタフェースを使用してHP Smart Update Managerに渡すことができます。HP Smart Update Managerのユーザ インタフェースでは、IPv6ターゲット サーバのDNS名を入力するか、IPv6アドレス ボタンを選択してIPv6アドレスを入力することで、IPv6ネットワーク上のリモート ホストを追加できます。HP Smart Update Managerは、IPv6の短縮および完全表記をサポートします。アドレスの入力時に、オプションのインタフェース番号を追加する必要はありません。

新しいホスト

?(h) X

DNS名でホストを追加
ホストDNS名:

IPを指定してホスト1台を追加
ホストIP:

IP範囲を指定してホストを追加
開始IP:
終了IP:

IPフォーマット
 IPv4
 IPv6

説明:

キャンセル(C) OK(O)

IPv6環境でHP Smart Update Managerを実行する際にターゲット サーバに接続できない場合や「Discovery failed」メッセージが表示される場合は、トラブルシューティングの項（63ページの「IPv6ネットワークでのHP Smart Update Managerのトラブルシューティング」を参照）を参照してください。

ターゲット サーバに接続した後は、HP Smart Update Managerの他の機能は、すべてIPv4環境と同じように機能します。IPv6ホストのログ ファイルは、他のすべてのHP Smart Update Managerファイルとともに、`\CPQSYSTEM\hp\log\ディレクトリに保存されます。`

Windows Server 2008でのIPv6の構成

HP Smart Update Managerは、Windows Server® 2008ベースのサーバのクライアントとしてWindows Vista®を使用すると、リモートインストールを最も強力にサポートできます。この環境でHP Smart Update Managerを使用すると、ローカルおよびリモートのターゲットサーバを対象に、リンクローカル、サイトローカル、グローバルIPアドレスなど、IPv6のすべての機能を使用できます。HP Smart Update Managerを実行するためのリモートのWindows Server® 2008オペレーティングシステムへのクライアントとしてWindows Vista®を使用するか、またはHP Workstationサーバブレード上のターゲットオペレーティングシステムとして使用すると強力なインフラストラクチャが構成され、ユーザはこのインフラストラクチャを利用して、ソフトウェアおよびファームウェアの更新をHP Smart Update Managerから完全なIPv6機能を使用してインストールできるようになります。

注： IPv6ネットワークでのHP Smart Update Managerによるインストールでは、Windows® XPクライアントはサポートされません。

IPv6アドレスは、コマンド ライン引数またはHP Smart Update Managerのユーザ インタフェースを使用してHP Smart Update Managerに渡すことができます。HP Smart Update Managerのユーザ インタフェースでは、IPv6ターゲット サーバのDNS名を入力するか、IPv6アドレス ボタンを選択してIPv6アドレスを入力することで、IPv6ネットワーク上のリモート ホストを追加できます。HP Smart Update Managerは、IPv6の短縮および完全表記をサポートします。アドレスの入力時に、オプションのインタフェース番号を追加する必要はありません。

新しいホスト

? (h)

DNS名でホストを追加
ホストDNS名:

IPを指定してホスト1台を追加
ホストIP:

IP範囲を指定してホストを追加
開始IP:
終了IP:

IPフォーマット
 IPv4
 IPv6

説明:

キャンセル(C) OK(O)

IPv6環境でHP Smart Update Managerを実行する際にターゲット サーバに接続できない場合や「Discovery failed」メッセージが表示される場合は、トラブルシューティングの項(63ページの「IPv6ネットワークでのHP Smart Update Managerのトラブルシューティング」を参照)を参照してください。

ターゲット サーバに接続した後は、HP Smart Update Managerの他の機能は、すべてIPv4環境と同じように機能します。IPv6ホストのログ ファイルは、他のすべてのHP Smart Update Managerファイルとともに、`\CPQSYSTEM\hp\log\ディレクトリに保存されます。`

Windows Server 2003およびWindows Server 2008でのIPv6の制限

Windows Server® 2003では、HP Smart Update Managerで必要なファイル共有機能を実現するためにサイトローカルアドレスが必要です。つまり、リンクローカルアドレスやグローバルIPv6アドレスは、HP Smart Update Managerのリモートターゲットとしてはサポートされていません。

Windows Server® 2008またはWindows®環境では、HP Smart Update Managerの使用に関わる既知の制限事項はありません。

注： IPv6ネットワークでのHP Smart Update Managerによるインストールでは、Windows® XPクライアントはサポートされません。

LinuxでのIPv6の構成

HP Smart Update Managerは、Red Hat Enterprise LinuxおよびNovell SUSE Linux Enterprise Server製品で提供される、LinuxのIPv6機能をそのまま使用します。この環境でHP Smart Update Managerを使用すると、ローカルおよびリモートのターゲットサーバを対象に、リンクローカル、サイトローカル、グローバルIPアドレスなど、IPv6のすべての機能を使用できます。リモートのターゲットサーバをHP Smart Update Managerからインストール対象にするには、iptables-ipv6 RPMをインストールしておく必要があります。iptables-ipv6 RPMがインストールされていない場合、HP Smart Update Managerが開始側のLinuxワークステーションにデータを送信するために必要な通信ポートを開けなくなります。Linuxファイアウォールを無効にしてHP Smart Update Managerが機能するようにすることは可能ですが、Linuxサーバが攻撃に対して脆弱になります。

Linux環境でのIPv6のセットアップ方法については、<http://www.linux.org/docs/ldp/howto/Linux+IPv6-HOWTO/index.html>にある「Linux IPv6 How-To」を参照してください。

IPv6アドレスは、コマンドライン引数またはHP Smart Update Managerのユーザ インタフェースを使用してHP Smart Update Managerに渡すことができます。HP Smart Update Managerのユーザ インタフェースでは、IPv6ターゲット サーバのDNS名を入力するか、IPv6アドレス ボタンを選択してIPv6アドレスを入力することで、IPv6ネットワーク上のリモート ホストを追加できます。HP Smart Update Managerは、IPv6の短縮および完全表記をサポートします。アドレスの入力時に、オプションのインタフェース番号を追加する必要はありません。

The screenshot shows a dialog box titled "新しいホスト" (New Host). It contains three radio button options for adding a host: "DNS名でホストを追加" (selected), "IPを指定してホスト1台を追加", and "IP範囲を指定してホストを追加". The "IPを指定してホスト1台を追加" option is selected, and the "ホストIP" field contains "fec0::2". To the right, the "IPフォーマット" section has "IPv6" selected. The "説明" (Description) field contains "Site Local IPv6 addressed Server". Buttons for "キャンセル(C)" and "OK(O)" are at the bottom.

IPv6環境でHP Smart Update Managerを実行する際にターゲット サーバに接続できない場合や「Discovery failed」メッセージが表示される場合は、トラブルシューティングの項(63ページの「IPv6ネットワークでのHP Smart Update Managerのトラブルシューティング」を参照)を参照してください。

ターゲット サーバに接続した後は、HP Smart Update Managerの他の機能は、すべてIPv4環境と同じように機能します。IPv6ホストのログ ファイルは、他のすべてのHP Smart Update Managerファイルとともに、`/var/hp/log/<IPアドレス>`ディレクトリに保存されます。

LinuxでのIPv6の制限

Linux IPv6環境でのHP Smart Update Managerの現時点での唯一の制限は、Linuxベースのすべてのリモート ターゲット サーバに、`iptables-ipv6 rpm`ファイルをインストールする必要があるということです。このファイルは、Red Hat Enterprise LinuxおよびNovell SUSE Linux Enterprise Serverオペレーティング システム用の配布メディアに収録されています。HP Smart Update Managerは、このファイルを使用してIPv6ファイアウォールのポートを開き、HP Smart Update Managerを使用するLinuxシステムと通信します。iptables-ipv6をインストールしないと、ファイアウォールが無効になっている場合を除き、HP Smart Update Managerが検出失敗を報告します。

トラブルシューティング

ROMのアップグレードが失敗した場合の復旧

システムROMのアップグレードが失敗した場合の復旧

システムROMのアップグレードの失敗から復旧するには、リダンダントROMまたはROMPaqを使用してください。

リダンダントROMリカバリ

システムROMをフラッシュする場合、ROMPaqはバックアップROMを上書きし、現在のROMをバックアップとして保存して、新しいROMが何らかの理由で壊れたときに代替のバージョンのROMに簡単に戻ることができるようにします。この機能では、ROMのフラッシュ中に電源障害が発生した場合でも、既存のバージョンのROMが保護されます。

サーバが起動すると、サーバは現在のROMが壊れているかどうかを確認します。ROMが壊れていることが検出されたら、システムはバックアップROMから起動しROMが壊れていること示す警告をPOSTを通じて送信します。

リダンダントROMにRBSUでアクセスするには、以下の手順に従ってください。

1. サーバの電源を入れます。画面の右上隅にプロンプトが表示されます。
2. F9キーを押してRBSUにアクセスします。
3. **[アドバンス オプション]**を選択します。
4. **[リダンダントROMの選択]**を選択します。
5. **[リダンダントROMの選択]**を選択します。
6. **Enter**キーを押します。
7. 現在のメニューを終了するには**Esc**キーを押します。RBSUを終了するには**F10**キーを押します。サーバが再起動します。

RBSUを使用できない場合、システム コンフィギュレーション スイッチのスイッチ設定を変更してROMイメージを切り替えることができます。詳しくは、サーバのマニュアルを参照してください。

ROMイメージが両方壊れている場合は、ROMPaqリカバリを実行してください。

ROMPaqリカバリ

ディザスタ リカバリ機能は、リダンダントROM機能をサポートしないシステムをサポートします。ディザスタ リカバリは、システムROMが冗長化されていないプラットフォームにのみ適用されます。最新のバージョンとバックアップバージョンのROMが両方とも壊れている場合、以下のROMPaqディザスタ リカバリ手順を実行してください。

1. 他のサーバで、Firmware Maintenance CDを挿入します。Firmware Maintenance CDインタフェースが表示されます。
2. エンドユーザ使用許諾契約書を読みます。続行するには、**[同意]**をクリックします。Firmware Maintenance CDインタフェースが再度表示されます。
3. **[ファームウェア アップデート]**タブをクリックします。
4. **[Firmware CDの参照]**をクリックします。

5. HPのWebサイト<http://www.hp.com/jp>からROMPaqイメージをダウンロードしてハードディスク ドライブに保存します。
6. ROMPaqイメージを実行し、ROMPaqディスクを作成します。
7. ROMが壊れているサーバに切り替えます。
8. サーバの電源を切ります。
9. ROMPaqディスクを挿入します。
10. サーバの電源を入れます。

サーバが1回の長いビープ音と2回の短いビープ音を鳴らした場合、ディザスタ リカバリ モードに入っていることを示しています。ディスクが正しいドライブに挿入されていない場合、システムは有効なROMPaqディスクが挿入されるまでビープ音を鳴らし続けます。

ROMPaqディスクは両方のシステムROMイメージをフラッシュします。問題なく実行された場合、徐々に音が高くなるビープ音が鳴ります。問題が生じた場合は、徐々に音が低くなるビープ音が鳴ります。この場合はディザスタ リカバリ プロセスを繰り返す必要があります。

11. サーバの電源を切ります。
12. ROMPaqディスクを取り出します。
13. サーバの電源を入れます。

ROMPaqディザスタ リカバリ用にサーバを手動で設定するには、以下の手順に従ってください。

1. サーバの電源を切ります。
2. アクセス パネルを取り外します。
3. システム メンテナンス スイッチの位置をディザスタ リカバリに設定します。スイッチの位置はサーバによって異なります。ご使用のサーバでの正しい設定については、サーバのマニュアルを参照してください。
4. Firmware Maintenance CDまたはHPのWebサイト<http://www.hp.com/jp/support>から入手した、最新のシステムROMが収録されたROMPaqディスクセットを挿入します。
5. アクセス パネルを取り付けます。
6. サーバの電源を入れます。
7. システムを完全に起動します。
8. 手順の1および2を繰り返します。
9. システム メンテナンス スイッチの位置を、元の設定に戻します。
10. 手順の5および6を繰り返します。

オプションROMのアップグレードが失敗した場合の復旧

オプションROMのアップグレードの失敗から復旧するには、オプションに応じた適切なリカバリ方法を使用してください。

アレイ コントローラROM

アレイ コントローラがサポートするリカバリROMは、バックアップROMを提供することによって、連続的なシステム可用性を保証する冗長化機能です。フラッシュ プロセスを実行すると、新しいバージョンのファームウェアがROMにフラッシュされますが、最後に確認されたバージョンのファームウェアもコントローラで保持されます。ファームウェアが破壊されると、コントローラはファームウェアのリダンダント バージョンに戻り、動作を続けます。

注 : ROMPaqは、ストレージ オプションの配布には使用されなくなったため、ストレージ オプション ROMはROMPaqではダウングレードできません。

Lights-Out Management ROM

RILOE II、iLO、およびiLO 2でディザスタ リカバリを実行するには、HPのWebサイト<http://www.hp.com/jp/manual/>に掲載されている、ご使用のLights-Out Management製品のマニュアルを参照してください。

インストールが失敗した後の復旧

トレース ディレクトリの収集

HP Smart Update Managerは、%TEMP%\hp_sumディレクトリにデバッグ トレース ログ セットを生成します。これらのファイルには、内部プロセスとデバッグの情報が含まれています。発生した問題を解決するために、これらのトレース ディレクトリで情報を収集してください。

Linuxリモート機能が使用できなくなった場合の復旧

ファイアウォール設定

Unable to Access Hostメッセージが表示される場合、ターゲットのファイアウォールが有効になっています。Linuxのデフォルト設定では、ターゲットのファイアウォールは有効になっています。

リモートLinux機能を復旧するには、ターゲットおよびホストのファイアウォールを無効にするか設定しなおしてHP Smart Update Managerがファームウェアをインストールするために必要なポート経由でのIPトラフィックを許可する必要があります。ファイアウォールで設定する必要があるポートのリストについては、「HP Smart Update Managerで許可されるポート」(59ページの「HP Smart Update Managerでのポートの有効化」を参照)を参照してください。

Microsoft Windows上のブロックされたプログラムの復旧

Windowsファイアウォール設定

あるプログラムがインターネットまたはネットワークからの接続を受け入れることができなくなると、Windows®のセキュリティの警告が表示されます。



Windows®ファイアウォールのルールおよびセキュリティ ポリシーを設定するには、**[ブロックを解除する]**をクリックして、ファイアウォール設定を次のように指定します。

1. **[スタート]**メニューから、**[コントロール パネル]**、**[管理ツール]**、**[セキュリティが強化されたWindowsファイアウォール]**、**[受信の規則]**、**[リモート管理 (NP受信)]**の順にクリックします。
2. **[有効]**を選択した後、**[接続を許可する]**を選びます。

iLOへの直接接続をサポートするには、pingを有効にする必要があります。

HP Smart Update Managerでのポートの有効化

HP Smart Update Managerが使用するポートは設定できません。HP Smart Update Managerのポートはリモートターゲットと通信を開始するとき、オペレーティング システムによって異なるいくつかのウェルノウン ポートを使用します。Windows®では、リモート ターゲットとの接続にポート138と445を使用します（リモートおよびファイル/プリント共有機能と同じ）。Linuxでは、HP Smart Update Managerはポート22（SSH）を使用してリモート ターゲットとの通信を開始します。

HP Smart Update Managerは、リモート ターゲットとHP Smart Update Managerが実行されているワークステーションとの間の通信に定義済みのポートを使用します。ユーザがHP Smart Update Managerを実行すると、HP Smart Update ManagerはAdministrator/root権限を使用してポートを動的にデフォルトWindows®およびLinuxファイアウォールに登録し、アプリケーションが実行されている間はこのポートを使用します。アプリケーションが終了する際、ポートは閉じられ登録も解除されます。通信はすべて、SSLを使用してSOAPサーバ経由で行われ、中間者攻撃、パケット スプーフィング、パケットの再生などの攻撃を防止する追加機能を使用されます。ポートの無作為な割り当ては、ポート スキャン ソフトウェアによるアプリケーションへのサービス拒否攻撃の防止に役立ちます。SOAPサーバは、通信開始時に使われる上記のポート（ポート138、445、および22）を使用してリモートターゲットに配置されます。配置されたSOAPサーバは、HP Smart Update Managerが実行されているワークステーションとの通信用に次の表で説明する別の独立したポートを割り当てます。HP Smart Update Managerのシャットダウン時に、SOAPサーバはシャットダウンされターゲット サーバから削除されます。ただし、SOAPサーバが存在したという事実はログ ファイルに記録されます。

HP Smart Update Managerを使用して安全なネットワーク上でリモート ターゲットにソフトウェアをインストールするために、次のポートが使用されます。

Windows®の場合

ポート	説明
ポート445および137/138/139 (ポート137は、NetBIOSネーム サービスを用いる場合のみ使用されます)	これらのポートは、ターゲット サーバ上のリモートのADMIN\$共有に接続するために必要です。これらのポートは、リモートのファイル共有に接続するためにWindows®サーバが使用する標準ポートです。ターゲット サーバ上のリモートのWindows®ファイル共有にリモートで接続できる場合は、適切なポートが開いています。
ポート60000~60007	ローカル システムとリモート システムの間でSSL経由でメッセージをやりとりするために、この範囲の任意のポートが使用されます。HP Smart Update Managerを実行するシステムでは、これらのポートを使用してデータがターゲット サーバに送信されます。 HP Smart Update Manager内のいくつかの内部プロセスでは、他のアプリケーションが使用していない場合、ポート番号60000から始まる各ポートが自動的に使われます。ポートが競合する場合、マネージャは次に空いているポートを使用します。ポート番号は、インストール対象として選択されるターゲット デバイスの数に左右されるため、上限が60007であるという保証はありません。
ポート61000~61007	これらのポートは、ターゲット サーバからHP Smart Update Managerを実行するシステムへの応答に使用されます。ターゲット サーバからの応答では、60000番台のポートと同じメカニズムがリモート アクセス コードにより使用されますが、最初に試されるポートは61000です。競合が発生する場合、使用されるポート番号が61007を超えないという保証はありません。IPv4のみのネットワークで使われるNICが1台の場合、空いている中で最も小さい番号のポートがHP Smart Update Managerが動作するローカル ワークステーション上のプロセス間での情報のやりとりに使われます。また、空いている次に小さい番号のポートがリモート サーバからのメッセージの受信に使われます。
ポート62286	このポートは、一部の内部通信用のデフォルトポートです。競合がなければ、このポートがリモート側のリッスン ポートになります。競合が発生する場合は、空いている次のポートが使用されます。
ポート80または63000~63005	ポート80を使用できる場合、ログはポート80を使う内部のセキュアWebサーバ経由でターゲットに渡され取得されます。ポート80を使えない場合は、63000~63005の間の任意のポートが使用されます。このサポートにより、ホスト サーバにアクセスすることなくiLOのファームウェアを更新できます。また、VMwareなどの仮想化プラットフォームを実行するサーバが、サーバの再起動や仮想マシンの他のサーバへの移行を伴うことなくそのiLOを更新できます。

Linuxの場合

ポート	説明
ポート22	このポートは、SSH経由でのリモートのLinuxサーバへの接続を確立します。

ポート60000~60007	<p>ローカル システムとリモート システムの間でSSL経由でメッセージをやりとりするために、この範囲の任意のポートが使用されます。HP Smart Update Managerを実行するシステムでは、これらのポートを使用してデータがターゲット サーバに送信されます。</p> <p>HP Smart Update Manager内のいくつかの内部プロセスでは、他のアプリケーションが使用していない場合、ポート番号60000から始まる各ポートが自動的に使われます。ポートが競合する場合、マネージャは次に空いているポートを使用します。ポート番号は、インストール対象として選択されるターゲット デバイスの数に左右されるため、上限が60007であるという保証はありません。</p>
ポート61000~61007	<p>これらのポートは、ターゲット サーバからHP Smart Update Managerを実行するシステムへの応答に使用されます。ターゲット サーバからの応答では、60000番のポートと同じメカニズムがリモート アクセス コードにより使用されますが、最初に試されるポートは61000です。競合が発生する場合、使用されるポート番号が61007を超えないという保証はありません。IPv4のみのネットワークで使われるNICが1台の場合、空いている中で最も小さい番号のポートがHP Smart Update Managerが動作するローカル ワークステーション上のプロセス間での情報のやりとりに使われます。また、空いている次に小さい番号のポートがリモート サーバからのメッセージの受信に使われます。</p>
ポート62286	<p>このポートは、一部の内部通信のデフォルト ポートです。競合がなければ、このポートがリモート側のリッスン ポートとして使用されます。競合が発生する場合は、空いている次のポートが使用されます。</p>
ポート80または63000~63005	<p>ポート80を使用できる場合、ログはポート80を使う内部のセキュアWebサーバ経由でターゲットに渡され取得されます。ポート80を使えない場合は、63000~63005の間の任意のポートが使用されます。このサポートにより、ホストサーバにアクセスすることなくiLOのファームウェアを更新できます。また、VMwareなどの仮想化プラットフォームを実行するサーバが、サーバの再起動や仮想マシンの他のサーバへの移行を伴うことなくそのiLOを更新できます。</p>

日本語文字セット使用時のオペレーティング システムの制限による問題からの復旧

Linuxオペレーティング システム上での実行時に、日本語文字セットを使ってユーザが指定した再起動メッセージを表示する

ユーザが、再起動操作中のシステム シャットダウンの前に表示するメッセージを指定することがあります。日本語文字セットを使いLinuxオペレーティング システムの日本語版上で実行している場合、メッセージは正しく表示されません。

Windowsオペレーティング システム上での実行時に、日本語文字セットを使ってユーザが指定した再起動メッセージで再起動する

ユーザが、再起動操作中のシステム シャットダウンの前に表示するメッセージを指定することがあります。日本語文字セットを使いWindows® オペレーティング システムの日本語版を実行している場合、メッセージが原因で再起動が自動的に行われません。再起動を成功させるには、**[Exit]**ボタンを選択する必要があります。

「致命的なエラー - アプリケーションを終了します」メッセージからの復旧

ダブルバイト文字を含むディレクトリパスでの実行

ダブルバイト文字を含むディレクトリパスで実行される場合、HP Smart Update Managerでは初期化の際に致命的なエラーが発生します。



HP Smart Update Managerは、パス名にダブルバイト文字を含むディレクトリでは実行できません。日本語版、中国語版など、オペレーティングシステムの一部のバージョンを使用する場合、ダブルバイト文字を使用してパスが作成されている可能性があります。

SUSE LINUX Enterprise Server 9上での実行時に再起動メッセージが表示されない問題の解決

SUSE LINUX Enterprise Server 9上でのHP Smart Update Managerの実行

ユーザは再起動メッセージを指定できます。このメッセージは、ファームウェアまたはソフトウェアのインストールが正常に完了した後、サーバが再起動する前に表示されます。ただし、SUSE LINUX Enterprise Server 9上でHP Smart Update Managerを実行する場合、再起動メッセージは表示されません。これは、SUSE LINUX Enterprise Server 9を使用する場合コンソールへのアクセスが存在しないからです。このエラーはHP Smart Update Managerだけに見られる現象ではありません。オペレーティングシステムの制限です。

切断されたHP Smart Update Manager接続の復旧

Firmware Maintenance CDの仮想メディアへのマウント

iLOまたはNICファームウェアの更新時には、HP Smart Update Managerの接続が切断され、コンポーネントをインストールできなくなります。アクセスエラーが存在する場合、HP Smart Update Managerはインストールを取り消します。

IPv6ネットワークでのHP Smart Update Managerのトラブルシューティング

HP Smart Update Managerがリモート サーバに接続できない場合、「Discovery Failed」エラーが報告されることがあります。検出の失敗の原因として、他社製のストレージ、リモート ターゲット サーバへのアクセスの失敗、システム リソースへのアクセスが不可能であることなどが考えられます。IPv6ネットワークでは、ホストを検出できない理由として、IPv6ネットワークの構成間違いが挙げられます。

IPv6/Windows Server 2003環境でのHP Smart Update Managerのトラブルシューティング

IPv6ネットワークがHP Smart Update Managerをサポートできるように正しく構成されているかどうかを確認するには、以下の項目をチェックする必要があります。内容はオペレーティング システムのバージョンによって異なります。

- アドレスがサイトローカルであることを確認します。サイトローカルアドレスは、通常、「FEC0:」で始まります。リモート ターゲットがWindows Server® 2003の場合、グローバルIPv6アドレスおよびリンクローカルIPv6アドレスはサポートされていません。
- リモート ターゲット サーバへのpingが通ることを確認します。Windows®オペレーティング システムでは、IPv6アドレスへのping送信にもpingコマンド (ping <ipv6アドレス>) を使用できます。
- IPv6ループバック アドレスにpingが通ることを確認します (ping ::1)。
- IPv6アドレスではなく、DNSのホスト名を使用してアドレスが正しいことを確認します。
- IPv6プロトコルがインストールされていることを確認します。Windows Server® 2003のデフォルト構成ではインストールされません。プロトコルのインストール後サーバを再起動して、アドレスが正しく取得されるようにします。
- コンソール プロンプトで次のコマンドを発行して、HP Smart Update Manager内部の認証情報を使用して admin\$共有に接続できることを確認します。

```
net use * \\<ipv6アドレス>.ipv6-literal.net\admin$ /user:<ユーザ名>  
net use * \\fec0::2.ipv6-literal.net\admin$ /user:administrator
```

ローカル システムにログインする際のものとは異なるユーザ名を使用している場合は、パスワードを入力しなければならない可能性があります。すべてのネットワーク共有で、.ipv6-literal.net名前文字列の使用をWindows®で正しく設定する必要があります。IPv6へのアクセスについて詳しくは、Microsoft社のWebサイト<http://support.microsoft.com/kb/944007>にあるMicrosoft® Knowledge Baseアートを参照してください。

注: HP Smart Update ManagerのユーザインタフェースにIPv6アドレスを入力する場合やコマンドライン パラメータを使用してHP Smart Update ManagerにIPv6アドレスを渡す場合は、.ipv6-literal.net サフィックスを使用する必要はありません。

他にネットワークやハードウェアの問題がない場合、リモート ターゲット サーバのadmin\$共有にアクセスできることを確認できれば、HP Smart Update Managerは機能します。

- Windows Server® 2003/IPv6環境でのHP Smart Update Managerの使用に関する項 (49ページの「Windows Server 2003でのIPv6の構成」を参照) の説明に従い、リモート ターゲット サーバでレジストリを変更していることを確認します。
- IPv4ネットワーク アドレスに戻して、HP Smart Update Managerがリモート ターゲット サーバを正常に検出することを確認します。

ローカルへのインストール方式を使用した、ターゲット サーバへのHP Smart Update Managerのコピーと実行は、常に可能です。

IPv6/Windows Server 2008環境でのHP Smart Update Managerのトラブルシューティング

IPv6ネットワークがHP Smart Update Managerをサポートできるように正しく構成されているかどうかを確認するには、以下の項目をチェックする必要があります。内容はオペレーティングシステムのバージョンによって異なります。

- リモート ターゲット サーバへのpingが通ることを確認します。Windows®オペレーティング システムでは、IPv6アドレスへのping送信にpingコマンド (ping <ipv6アドレス>) を使用できます。
- IPv6ループバック アドレスにpingが通ることを確認します (ping ::1)。
- IPv6アドレスではなく、DNSのホスト名を使用してアドレスが正しいことを確認します。
- コンソール プロンプトで次のコマンドを発行して、HP Smart Update Manager内部の認証情報を使用して admin\$共有に接続できることを確認します。

```
net use * \\<ipv6アドレス>.ipv6-literal.net\admin$ /user:<ユーザ名>
net use * \\fec0::2.ipv6-literal.net\admin$ /user:administrator
```

ローカルシステムにログインする際のものとは異なるユーザ名を使用している場合は、パスワードを入力しなければならない可能性があります。すべてのネットワーク共有で、.ipv6-literal.net名前文字列の使用をWindows®で正しく設定する必要があります。IPv6へのアクセスについて詳しくは、Microsoft社のWebサイト<http://support.microsoft.com/kb/944007>にあるMicrosoft® Knowledge Baseアートを参照してください。

他にネットワークやハードウェアの問題がない場合、リモート ターゲット サーバのadmin\$共有にアクセスできることを確認できれば、HP Smart Update Managerは機能します。

IPv6/Red HatおよびNovell SUSEベースLinux環境でのHP Smart Update Managerのトラブルシューティング

- コンソール プロンプトで次のコマンドを発行して、HP Smart Update Manager内部の認証情報を使用してリモート ターゲット サーバへのssh接続を確立できることを確認します。

```
ssh <ipv6アドレス>
ssh 2101:db8:0:1::9
```

IPv6接続を確立するには、コンソールでターゲットLinuxサーバのrootのパスワードを入力する必要があります。

- リモート ターゲット サーバへのpingが通ることを確認します。Linuxでは、IPv6アドレスへのping送信にping6コマンドを使用する必要があります (ping6 <ipv6 アドレス>)。
- IPv6ループバック アドレスにpingが通ることを確認します (ping6 ::1)。
- IPv6アドレスではなく、DNSのホスト名を使用してアドレスが正しいことを確認します。
- ipconfigを使用して、NICにIPv6アドレスが割り当てられていることを確認します。構成のトラブルシューティングについては、<http://www.linux.org/docs/ldp/howto/Linux+IPv6-HOWTO/index.html>にある「Linux IPv6 How-To」を参照してください。
- IPv6ネットワークのセットアップとトラブルシューティングについては、<http://www.enterprisenetworkingplanet.com/netsp/article.php/3634596>にある「Getting Around IPv6」(Carla Schroder著)を参照してください。
- IPv4ネットワーク アドレスに戻して、HP Smart Update Managerがリモート ターゲット サーバを正常に検出できることを確認します。
- ローカルのインストール方式を使用した、ターゲット サーバへのHP Smart Update Managerのコピーと実行は、常に可能です。

テクニカル サポート

参照資料

ProLiant Firmware Maintenance CDまたは他のCDをダウンロードする方法については、HPのSmartStartダウンロードのWebサイト<http://www.hp.com/jp/servers/smartstart/>を参照してください。

一般的なマネジメント製品について詳しくは、HPのProLiant EssentialsのWebサイト<http://www.hp.com/jp/servers/proliantessentials/>を参照してください。

Smartアレイ コントローラを使用するProLiantサーバに接続されているModular Smart Array 20/50/60/70ストレージ エンクロージャのSATAハードディスク ドライブの更新のサポートについて詳しくは、HP StorageWorks Modular Smart ArrayのWebサイト<http://www.hp.com/go/msa> (英語) のサポート マトリックスを参照してください。

ProLiantサーバがサポートするオペレーティング システムについて詳しくは、HPのWebサイト<http://www.hp.com/go/supportos> (英語) にあるオペレーティング システム サポート マトリックスを参照してください。

ファームウェアのサポートについては、HPのWebサイト<http://www.hp.com/servers/smartstart/supportmatrices> (英語) にあるProLiant Firmware Maintenance CDマトリックスを参照してください。

オペレーティング システム情報

Microsoft® Windows®オペレーティング システムについては、Microsoft®社のWebサイト<http://www.microsoft.com>を参照してください。

Linuxオペレーティング システムについて詳しくは、下記のWebサイトを参照してください。

- Red Hat Linux : <http://www.redhat.com>
- SUSE LINUX : <http://www.novell.com/linux>

頭字語と略語

GUI

graphical user interface。グラフィカル ユーザ インタフェース

HBA

host bus adapter。ホスト バス アダプタ

HPSUM

HP Smart Update Manager

I/O

input/output。入力/出力

iLO

Integrated Lights-Out

iLO 2

Integrated Lights-Out 2

NIC

network interface controller。ネットワーク インタフェース コントローラ

POST

Power-On Self Test。電源投入時セルフテスト

PSP

ProLiant Support Pack

RBSU

ROM-Based Setup Utility。ROMベース セットアップ ユーティリティ

RILOE II

Remote Insight Lights-Out Edition II。リモートInsightボードLights-Out Edition II

SAN

storage area network。ストレージ エリア ネットワーク

SAS

serial attached SCSI

SCSI

small computer system interface

SOAP

Simple Object Access Protocol

SSH

Secure Shell

SSL

Secure Sockets Layer

WMI

Windows Management Instrumentation

索引

E

EULA (エンド ユーザ使用許諾契約書) 7

F

Firmware Maintenance CD 5、6、7、10

G

GUI、複数ホスト インストールでの使用 27

GUIの使用 27

GUIを使用した複数ホスト インストール 27

H

HP c-Class BladeSystem用のHP Onboard Administrator 6

HP Smart Update Manager GUI 15

HP Smart Update Managerの概要 5

hpsum_detail_log.txt log 25

hpsum_log.txt log 25

HPのWebサイト 6、8

I

Windows Server 2003 IPv6環境 49

IPv6、トラブルシューティング 63、64

IPv6ネットワークの構成 49

L

Lights-Out Management ROM 6、58

Lights-Out Management ROMフラッシュ
コンポーネント 6

Linux IPv6環境 54

Linux Smartコンポーネント、リターン コード 46

Linuxリモート機能、復旧 58

N

NICファームウェア 6、17、23

O

Onboard Administrator 6

P

ProLiant Essentials Foundation Pack 6

R

ROM、Lights-Out Management 6、58

ROM、アレイ コントローラ 57

ROM、ストレージ 57

ROMPaqディザスタ リカバリ 56

ROMアップグレードの動作 23

ROMのアップグレード、オプションROMの
アップグレードが失敗した場合の復旧 57

ROMのアップグレード、システムROMの
アップグレードが失敗した場合の復旧 56

ROMの冗長化 56

ROMの復旧、リダンダント 56

S

SASハードディスク ドライブ 6

SLES (SUSE Linux Enterprise Server) 62

SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 62

T

TPM (Trusted Platform Module) 5、8、9、34

Trusted Platform Module (TPM) 5、8、9、34

U

USBドライブ キー 6、7、8

W

Windows Management Instrumentation (WMI) 5

Windows Server 2008 IPv6環境 52

Windows Smartコンポーネント、リターン コード 46

あ

アレイ コントローラ 6、17

い

インストール、オフライン 7

インストール、オンライン 7

インストール、グラフィカル 10、11

インストール、スクリプト 10、11、40

インストール、複数のホストにインストールする
コンポーネントの選択 36

インストール オプション 17、21、23

インストール、グラフィカル 11

インストール シナリオ 10

インストール ステータス 25、38
インストールするコンポーネントの選択 17、36
インストールするコンポーネントの選択、初回 15
インストール中 23
インストール方法 6
インストール ログ 25
インストール ション ホスト 12、14
インストール ション ホストの選択 16
インストール ション ホストの選択、初回 14
[インベントリ作成中]画面 27

え

エラー コード 45
エンド ユーザ使用許諾契約書 (EULA) 7

お

オプション、インストール 6、17
オプション、再起動 20
オプションROMのアップグレードが失敗した
場合の復旧 57
オプション、インストール 21、23
オフライン インストール 7
オペレーティング システム 65
オンライン インストール 7

か

概要、Firmware Maintenance CD 5
概要、HP Smart Update Manager 5

き

キーボード サポート 12
強制インストール 23
共有ストレージ、ROMの更新 23
共有デバイスを許可 23

く

グラフィカル インストール 10、11
グループ 27、31
グループの管理 31
グループの削除 31
グループの追加 31
グループの編集 31

こ

高度なトピック 48
構文 40
コマンド構文 40
コマンドライン インタフェース、使用 40
コマンドライン構文 40
コマンドライン ツール 10
コマンドラインの例 44
コマンドライン引数 40

コントローラ、アレイ 6
コンポーネント、インストール 6、15、17、27
コンポーネント、複数のホストにインストールする
コンポーネントの選択 36
コンポーネント、新たに追加 8
コンポーネント、インストール 10
コンポーネント選択ウィンドウ 21
コンポーネントのインストール 6、10
コンポーネントのステータス 17、36
コンポーネントの設定、Windows 44

さ

サーバの仮想化の検出とサポート 49
[サーバホスト]ウィンドウ 36
再書き込みを許可 23
再起動オプション 20
再起動設定 17、20
再起動遅延 20
最小要件 5
サポート 65
参照資料 65

し

システムROMのアップグレードが失敗した
場合の復旧 56
システムの[ステータス]フィールド 17、19、36
実行、初回 12
失敗した依存状態 40
[失敗した依存状態]画面 21
失敗した依存状態を表示 21
シナリオ、インストール 10
初回実行 12
資料 65

す

スクリプト インストール 11、40
ステータス、インストール 25、38
ステータス、コンポーネント 17、36
ステータス、システム 36

せ

制限、Linux IPv6環境 55
制限、Windows Server IPv6環境 54
設定、再起動 20

そ

ソフトウェアとファームウェアのインストール、
同時 48

た

対象読者 5
ダウングレードを許可 23

ダブルバイト文字 62
単一ホストの選択 36、38

て

ディザスタ リカバリ 56
ディザスタ リカバリ、ROMPaq 56
テクニカル サポート 65

と

ドライブ キー 6
トラブルシューティング 56
トレース ログ 58

に

認証情報 27、34
認証情報の入力 34

は

ハードディスク ドライブの容量 5
はじめに 5
パッケージ 5
パラメータ 40

ひ

引数 40

ふ

ファームウェアとソフトウェアのインストール、
同時 48
ファームウェアとソフトウェアの同時
インストール 48
ファームウェアの上書き 23
ファームウェアの再書き込み 23
ファームウェアのダウングレード 23
ファイアウォール設定 58、59
ファイアウォール設定、設定 58、59
複数のリモート ホスト、インストール 10、11
複数ホスト 27、36
複数ホスト インストール 27
複数リモート ホストへのインストール 11
ブロックされたHP Smart Update Manager、復旧 59

ほ

ポート、HP Smart Update Managerでの有効化 59
ホスト 27、28、34
ホストの管理 28
ホストの削除 28
ホストの追加 28
ホストの編集 28
[ホスト]フィールド 17、36

め

メモリ 5

よ

要件、最小 5

り

リターン コード 45
リターン コード、Linux Smartコンポーネント 46
リターン コード、Windows Smartコンポーネント 46
リダンダントROM 56
リモート機能、復旧 58
リモート ホスト 11、27
リモート ホスト、複数ホストへのインストール 11

れ

例 44

ろ

ローカル ホスト、グラフィカル インストール 10、11
ローカル ホスト、スクリプト インストール 10、11
ローカル ホスト インストール 14
ログ ファイル 25